



# 國際協力事業團 研修事業部

國際協力事業團  
研修事業部

5  
6  
7





# 日中青年の友情計画

## 日中青年友谊计划

JICA LIBRARY



1096633(1)

23432

1991

青業

JR

91—721

国際協力事業団

23432

# 信頼と友情への第一歩

## 信赖与友谊的第一步

平成3年度日中青年の友情計画  
1991年度日中青年友谊计划

歓迎会  
〈欢迎会〉



期待と希望を胸に  
充满了期待和希望



プログラムの成功と日中友好を願って乾杯!  
祝愿计划成功和日中友好, 干杯

中国側団長より記念品の贈呈  
由中国方面团长赠送纪念品



国際協力事業団 中島理事より歓迎のあいさつ  
由国际协力事业团中岛理事致欢迎词



沸きおこる拍手  
热烈的掌声



あいさつに耳を傾ける青年たち  
青年们认真聆听



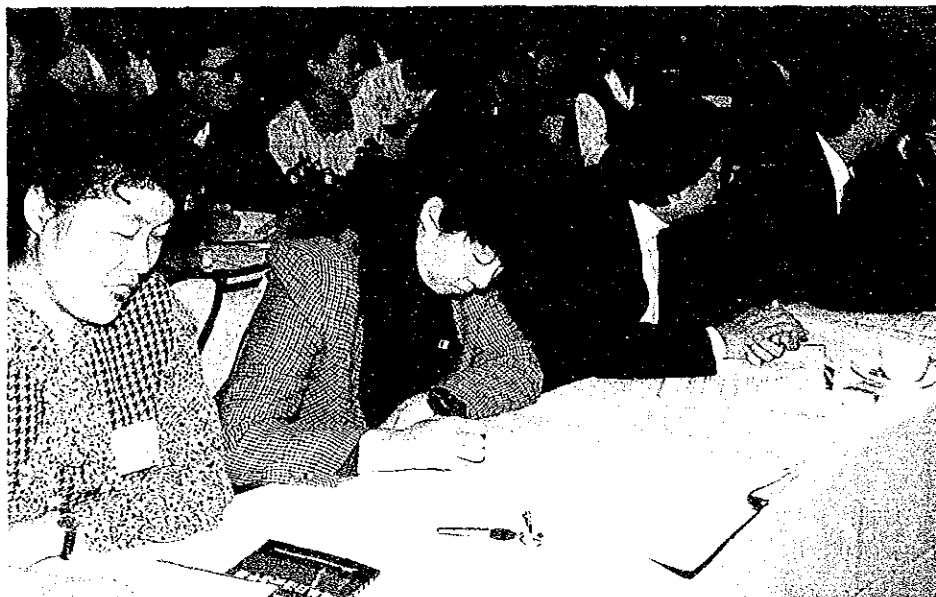
なごやかな歓談風景、早くも話がはずむ  
融合的欢快交谈场面，很快就谈笑风声

セレモニー後の昼食懇談会 楊振正大使と笑顔で歓談  
仪式之后的午餐交流会 与杨振正大使欢快交谈

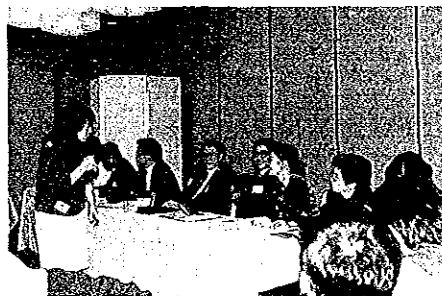
# 共通・都内分野別プログラム

〈共同・東京都内日程〉

笑顔もこぼれる講義風景  
到处是笑颜的讲议场景



はじめまして。どうぞよろしく  
初次见面，请多指教



楽しく学ぶ日本語学習  
愉快地学习日语



労働大臣を表敬訪問  
对劳动大臣进行礼节访问

# 合宿セミナー

〈合宿研讨会〉



熱心な討論が続く  
热心的讨论还在进行着



のどかなひととき  
物然时刻



車中であふれる笑顔  
车中仍是片笑语

日本の空の下、童心にかえって…  
在日本的晴空之下，追回童心……



# 地方分野別プログラム

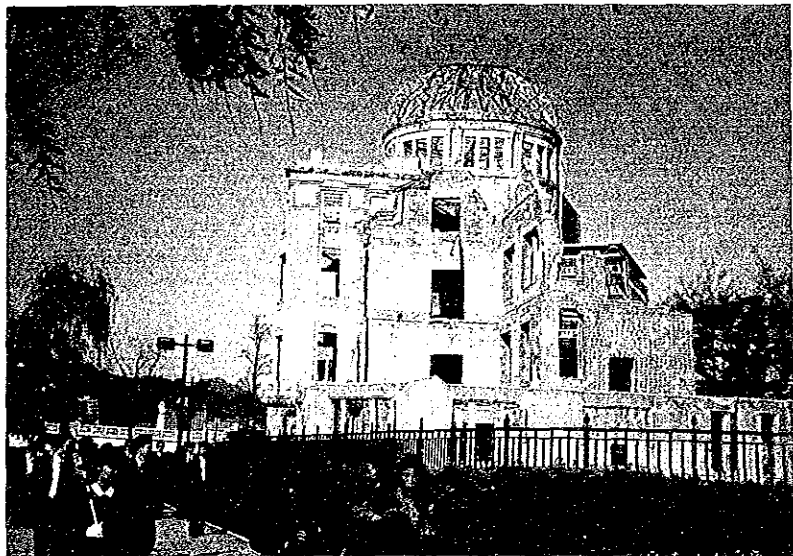
〈地方日程〉



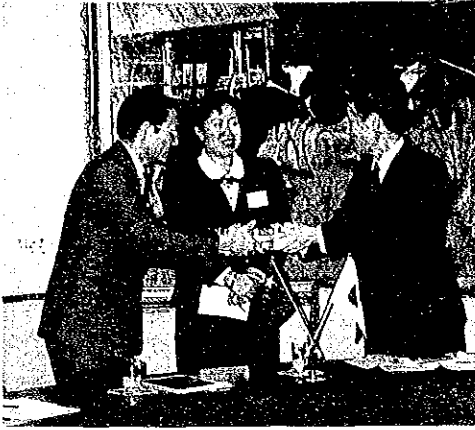
ホストファミリーと記念の一枚  
与接待家庭的一张纪念像



コンピューターもお手のもの  
操作计算机



広島原爆ドームを背に  
以广岛原子弹爆炸圆顶馆为背景



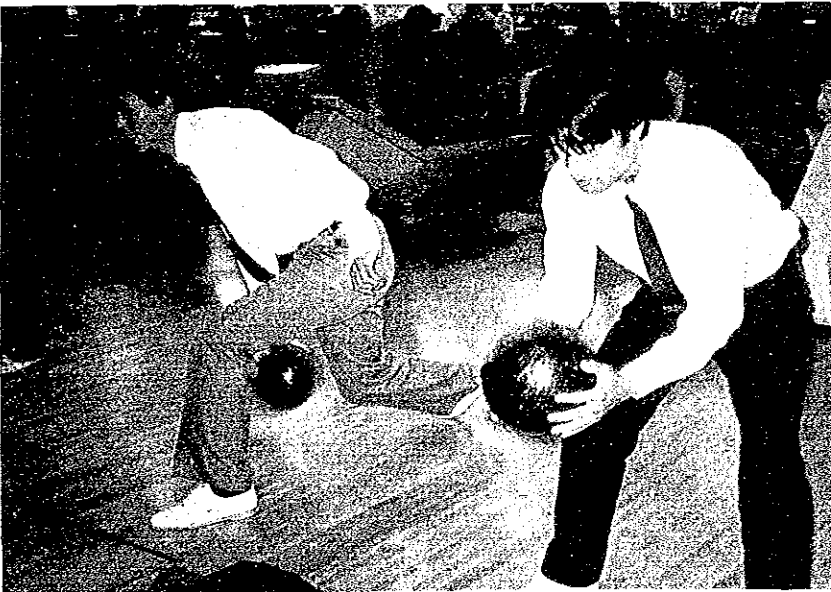
青森にて表敬訪問  
在青森进行礼节访问



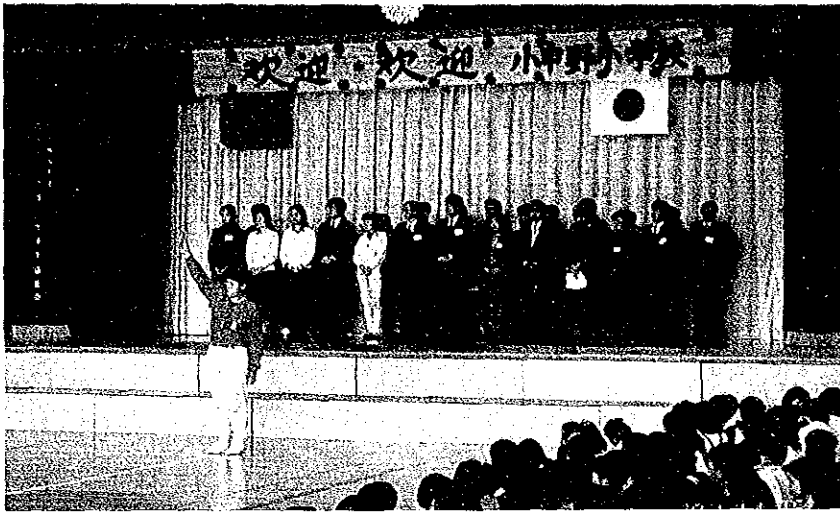
行く先々で熱烈な歓迎を受ける  
走到每一处，都受到热烈欢迎



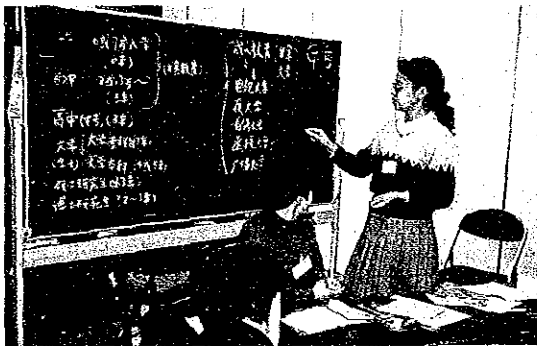
茶道体験 ちょっと苦いかな  
体验茶道，稍微有点苦



初体験のボウリングに大  
ハッスル  
初次打保龄球，高兴极了



小さな友より大きな歓迎を受ける  
受到小朋友们的热烈欢迎



日本の教育制度を学ぶ  
学习日本教育制度



なごやかな飲談風景  
融洽的欢谈场景

歡送会  
〈欢送会〉



日中青年友



国際協力事業団 滞日研修事業部次長よりあいさつ  
国际协力事业团研修事业部次长致词

中国側代表あいさつ  
中国方面代表致词



自慢ののどを披露  
披露歌唱才能



新しく築かれた友情に乾杯！  
为新结成的友谊干杯！



今後もこの友情が  
続きますように  
愿今后将友情持续  
下去

さようなら また会う日まで  
再见，等到重逢那一天



# 日中青年の友情計画



## 序

「日中青年の友情計画」は、1987年より5カ年計画で開始され、今年度は、公務員、青年指導者、経済青年および教員の4グループ100名を受け入れて無事終了することができました。この5年間に招へいした中国青年は450名に達し、そのひとりひとりとわが国青年との友情のきずなは、青年の帰国後も文通等によって深められています。日本青年が中国青年を訪ねるなどの動きも活発化しつつあると聞き及び、本計画がわが国と中国との友好・親善の一端を担っていることをうれしく思っております。

本報告書は、招へい青年の代表、合宿セミナーに参加した日本青年およびホームステイを引き受けていただいた全国の家庭の皆様から寄せられた感想文を中心に、招へい青年の1カ月の滞在記録をとりまとめたものです。本事業の実施に当たっては、感想文を紹介させていただいた方々を含め、多数の方々のご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。皆様にとって本報告書が思い出の一助となり、また参加者の体験をより多くの方々に共有していただくことができれば幸いです。

終わりに、本計画の実施に温かいご理解とご協力をお寄せ下さいました関係者の皆様に重ねて謝意を表しますとともに、わが国と中国との友情のきずなが、今後ますますたく、力強いものとなりますよう、引き続きご支援のほどお願い申し上げます。

平成4年3月

国際協力事業団

研修事業部

部長 諏訪 龍



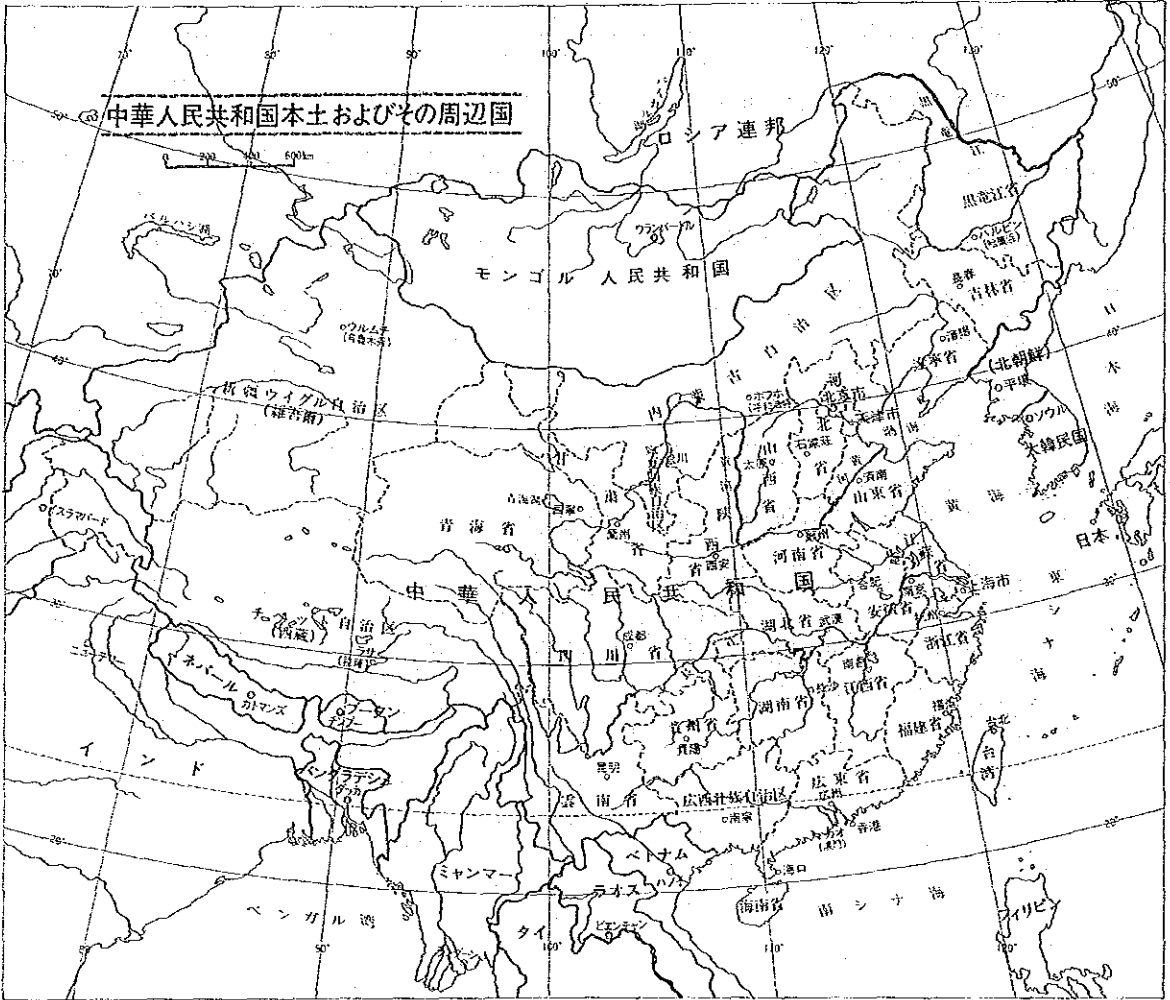


# 目 次

## 序

1. 日中青年の友情計画	
(1) 事業の概要 .....	7
(2) 実施協力団体と実施県 .....	9
2. 招へい青年の印象 .....	11
3. 合宿セミナー参加日本青年の声 .....	19
4. ホストファミリーの思い出 .....	28
〈実績資料〉	
1. 実施日程 .....	34
2. 日中青年の友情計画実績一覧 .....	38
3. 平成3年度青年招へい事業受け入れ実績一覧 .....	39
4. 青年招へい事業実施協力団体等一覧 .....	40
〈招へい青年名簿〉 .....	79

中華人民共和國本土およびその周辺国



# 1. 日中青年の友情計画

## (1) 事業の概要

### 1) 事業の目的

21世紀に向けて、日本と中国との友好と協力の関係をより強固かつ実りあるものとするため、未来の国造りを担う中国の青年をわが国に招へいし、日本の同世代の青年との交流を通じ、相互理解を深め、真の友情と信頼を培うことを目的とする。

### 2) 実施方法

#### ①招へい人数

平成3年度は100名を同時期に受け入れる。

#### ②招へい対象者

下記分野における指導的立場にある18～35歳前後の青年。

(総団グループ、リーダー、サブリーダーは除く)

##### (i) 総団

中華全国青年連合会幹部

##### (ii) 青年指導者

中華全国青年連合会職員・青少年対策関係者等(青少年犯罪防止等)で各地方の青年リーダー

##### (iii) 公務員

中央政府の各部門の公務員

##### (iv) 経済青年

第三次産業従事者(流通、サービス等)を含む企業管理者・工場長等の国営企業・郷鎮企業の管理部門関係者

##### (v) 教員

小中学校等の教員・学校運営関係者等の教育関係者

#### ③招へい期間及び時期

11月5日から12月5日までの1カ月間

### 3) プログラム概要

来日	共通プログラム	日本の経済、文化、政策等についての概論
31 日 間	以下の分野での分野別研修プログラム ・青年指導者(スポーツ、文化、社会活動に関わる者) ・公務員 ・経済青年 ・教員	関連分野の省庁・施設等訪問  地場産業等の施設見学  日本青年との交流  ホームステイ
	視 察 旅 行	文化、社会的面から日本理解を深めることを目的とする
帰国	評価プログラム	訪日成果を強化するため評価会を行う

### 4) 受け入れ体制

本計画を円滑に実施するため次の2委員会を設置する。

#### ①関係省庁調整連絡会議

- (i) 任務：本計画の実施および運営に係わる基本的事項につき協議。
- (ii) 構成メンバー：

外務省経済協力局技術協力課

農林水産省経済局国際部国際協力課

アジア局地域政策課

労働省大臣官房国際労働課

大臣官房文化交流部文化第二課

自治省大臣官房企画室

総務庁青少年対策本部

国際協力事業団

文部省学術国際局国際企画課教育文化交流室

#### ②実行連絡調整委員会

- (i) 任務：実行計画の運営、分野別プログラムの実施および各プログラム間の連携につき協議し、プログラム実施上の問題につき、国際協力事業団に対し助言。

(ii) 構成メンバー：関係省庁より推薦された民間の実施協力団体。

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| (財)青少年育成国民会議     | (財)国際交流サービス協会    |
| (財)世界青少年交流協会     | (財)青年海外協力協会      |
| (財)日本国際生活体験協会    | 日本青年団協議会         |
| (財)全国農村青少年教育振興会  | (財)日本ユネスコ協会連盟    |
| (財)日本経済青年協議会     | (財)日本ユース・ホステル協会  |
| (財)勤労厚生協会        | (財)日本友愛青年協会      |
| (財)ユースワーカー能力開発協会 | (財)国際協力サービス・センター |

### 5) 実施運営分担

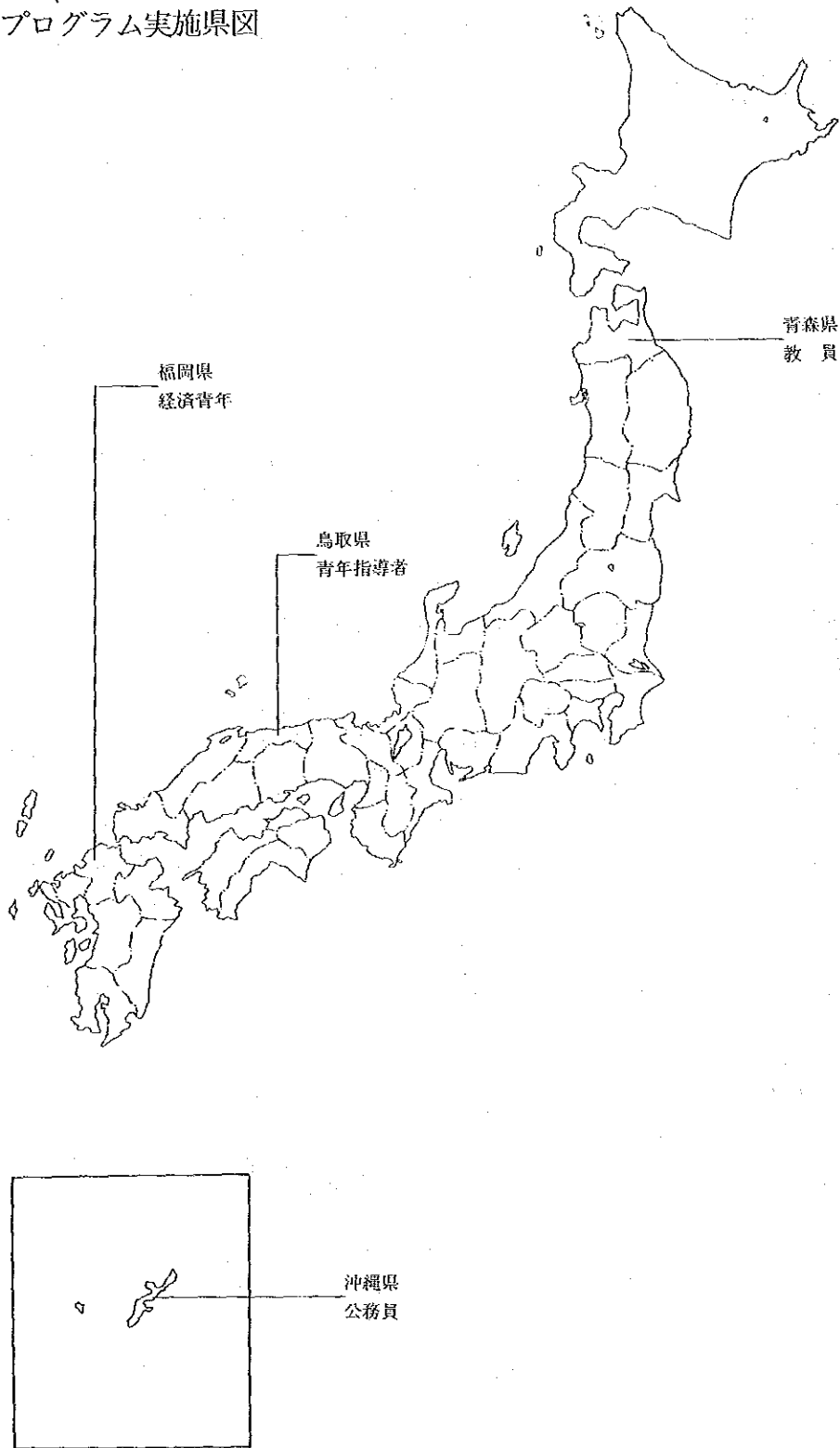
	プログラム 監理	プログラム実施		食事・宿舎の 手配
		連絡調整	実施	
共通プログラム (都内)	国際協力事業団	国際協力事業団	国際協力サービス・センター	国際協力サービス・センター
都内分野別プログラム (都内)		実施協力団体	実施協力団体	実施協力団体
合宿セミナー プログラム (東京近郊)		実施協力団体 地方協力団体 {国際協力事業団}	地方協力団体 {国際協力事業団}	地方協力団体 {国際協力事業団}
地方分野別 プログラム (ホームステイを含む)		実施協力団体	実施協力団体	実施協力団体
見学旅行 (広島、京都等)		国際協力事業団	国際協力サービス・センター	国際協力サービス・センター
評価プログラム (都内)				

(注) 地方分野別プログラムは、地方公共団体の指導と協力を得て実施する。

## (2) 実施協力団体と実施県

分野別	人数	実施協力団体名	実施県
総 団	4 (2名(財)2名(財))	国際協力サービス・センター	—
公務員	22	国際交流サービス協会	沖縄
青年指導者	25	日本ユネスコ協会連盟	鳥取
経済青年	25	日本経済青年協議会	福岡
教 員	24	青年海外協力協会	青森

プログラム実施県図



## 2. 招へい青年の印象

### 無題



張 傑

公務員グループ

中国青年代表団に参加して  
訪日し、日本人、日本政府お  
よび各友好団体の心温まるお

もてなしを受けた1カ月の滞在は、大変深い印象  
を残してくれました。お別れに際し、中日両国の  
子々孫々にわたる友好を祈念し、七言絶句をした  
ためます。

東風吹きて 4時暖かし  
遙かに望む日本に麗し朝日昇る  
只一条の帯水を隔てるのみ  
海潮にのりて歌声こだまする

高所より眼を大海に放てば  
まさに杯の如し  
中国より遙かに見れば瑞祥の気立つ  
只一条の帯水を隔てるのみ  
隣国の兩岸に 絵画花咲く

### 終生忘れ得ぬ沖縄でのホームステイ

張 涿・艾 尔肯

公務員グループ

日本に着いたばかりのころ、言葉も通じないし、  
風俗習慣も違うので、ある種の疎外感を感じてい  
た。しかし、数日間のホームステイを通して、ま  
るで自分の故郷に戻ったようだった。楽しく、意  
義深いホームステイの生活は、終生忘れることの  
できない思い出となった。

私たちのホストファミリーは、島袋正雄さん・  
苗子さんご夫妻だった。島袋さんご夫妻は、私た  
ちを迎えるために、数カ月も前から準備を始めら  
れたそうだ。

11月22日、ご夫妻は、まるで両親がわが子をし  
っかりと受け取るように、私たちを車に乗せて下  
さった。そして、まず最初に、「平和祈念資料館」  
に案内して下さり、平和を愛すること、そして戦  
争に反対しなければならないことを教えて下さっ  
た。そのあと、2歳になる最愛のお孫さんに会っ  
た。そのお孫さんの天真爛漫な可愛い大きな瞳の  
中に、私たちは未来の光り輝く希望を見つけた。  
そして、家に着くやいなや、ご夫妻は、夕食のし  
たくやら、お風呂の準備に大わらわ。また、わざ  
わざ中国語のできる張さんを招いて下さったので、  
張さんを変えて交流することができた。島袋さん

のご兄弟と義母さんもわざわざ来て下さり、私たちを歓迎して下さいました。温かい家庭に触れ、本当にわが家に帰った以上のほのほのとした気持ちに浸ることができた。

2日目は、鳥袋夫妻と彼の兄弟、そして70すぎのご両親とともに、数十キロ離れた海辺へ釣りに行った。沖縄、この日本のハワイの秀麗な風景に、私たちは深く酔いしれた。彼らは、まず手とり足とりで、私たちに釣りのしかたを教えてくれた。そのあと、盛りだくさんの昼食の準備にとりかかった。夕食のとき、私たちは、自分で釣った新鮮な魚を、そのまま味わうことができた。そのうれしさを、なんと言葉で表したらよいのか、私は知らない。夕方になって、鳥袋さんの親戚十数人の方々は、仕事で疲れているのにもかかわらず、数十キロの道のりを車でやってきて、私たちと一緒に海辺でのキャンプファイヤーを楽しんだ。ともに心ゆくまで歌を歌い、踊りを踊った。心は、この上もない感動を覚えた。あのゆらゆらと燃えさがる炎は、ひとりひとりの顔を明るく映し出すとともに、皆の心まで暖かくしてくれた。

3日目、鳥袋夫妻は、琉球村の見学に連れて行って下さった。そこで私たちは、沖縄の人々の刻苦奮闘の歴史、輝かしい伝統文化を実感することができた。そのあと鳥袋夫妻と友人たちと一緒にボウリングをした。私たちふたりはボウリングが初めてだったが、彼らの指導のもと、私たちグループは、素晴らしい成績を収めることができた。夕方になって、別れのときが来たが、鳥袋夫妻は、また、日本料理店に連れて行って下さり、楽しい夕食のひとときをもつことができた。私たちは心ゆくまでお酒を飲み、歌を歌い別れを惜しんだ。なぜ楽しい時間はこんなに速く過ぎてしまうのだろうか。わずか一瞬のこのように思えたが、すでに深夜になってしまっていた。皆、名残惜しげに握手をしあい、別れを告げた。鳥袋さんの兄弟と固く抱きあい、できるなら永遠にこのままでいた

い、別れたくないと思った。

ホームステイの3日間、鳥袋さんご一家にいろいろと迷惑をおかけした。私たちに一番よい部屋を提供して下さい、中国料理を作って下さり、また、ピアノを演奏したり歌も教えて下さった。私たちのホームステイの生活を楽しくするために、食物や生活用品についても気を配って下さった。ご夫妻は本当に智恵を絞り、心血を注いで下さった。これに対し私たちは感謝の言葉もない。次の詩で心からの感謝の意を表したい。

3日間の喜び3秒の如く  
友情永遠に 心に刻む  
一衣帯水 良き隣国  
世々代々 平和友好

## 人の優しさなくして平和は語れない



董 英

青年指導者グループ

このたび、私は光栄にも「日中青年の友情計画」に参加でき、中国青年指導者グループ

の一員として、東京から香川、香川から岡山、鳥取、そして広島、京都、奈良、大阪と、それぞれ特色ある地域を興味深く見て回り、大変楽しい日々を過ごせた。とりわけ、手島（香川県）での合宿セミナー、鳥取でのホームステイや交流・討論プログラムなどがとても印象深く、各地でたくさんの友情の種をまくことができたと感じている。

私たちの訪れたところ、参加したひとつひとつのプログラムすべてに友好と平和の雰囲気のみならず、この忘れがたい日々のなかで、私の出会ったすべての笑顔、私に向けられたすべてのあいさつ、耳にした歌声、それらのどれひとつとして、私の心に深い感情の軌跡を残さなかったものはない。この穏やかで親しみに満ちた空気のかなかにど



っぷりと身を横たえているとき、私には言葉の障壁などまったく取るに足りないささいなことのように思われた。中日の友好、世界の平和が、もし民間レベルでの交流を欠いたものであったなら、もし心と心の暗黙のつながりを欠いたものであったなら、それらはなんと色あせ、無力なものであることだろう。

今、このさわやかな緑の島日本を離れるにあたって、私はいつの間にか彼女（日本）の温かい友情の腕にさりげなく抱かれている自分を感じている。香川の青年たちとの合宿での率直な交流の数々、それぞれの民俗色あふれる野外料理教室、力を競い合ったスポーツ大会、そして歴史を感じさせる神面太鼓の響きなど、今もなおそのひとコマひとコマが私のまぶたに浮かぶ。とりわけ、人の心の優しさに最も触れることができたホームステイでの体験は、まさに清冽な甘い泉のごとく、思い出すたびに私の心を懐かしさでいっぱいにする。大勢の日本の友人たちが、今では私の最も大切な親友となったのである。さらにまた、次々と新たな魅力に満ちた見学旅行のなんと楽しく、なんと充実していたことか。日本——この現代感覚と歴史とを同時にあわせもつ民族は、今や私たちにとって、これまでのような抽象的なイメージだけのものではない。

この1カ月の間、心ふるえる場面に数多く出会った。私の筆ではその想いのひとつひとつを存分に書き尽くすことができないのがなんとも残念である。ともあれ、私は、私たちのこのたびの活動が、中日両国の歴史の大河のなかで命あふれる一本の激流となっていることを感じる。そしてまた、この奥深い交流の数々がすでに両国の国民、とりわけ若者の心のなかに消え去ることのない痕跡を留めたと確信している。中日両国の青年は、必ずやこの友好の旋律のなかに絶えず美しい音符を書き加え続けることだろう。そしてこの平和の歌声を全世界へ広め続けることだろう！

私は、これこそ中日両国の若者の共通の心の声であると信じている。

## 忘れがたいホームステイ



劉 利民

青年指導者グループ

日本でのこの1カ月間の研修見学を通じて、私の視野は広がり、また、思うところも

多く、これを一言で言い尽くすことは大変難しい。しかし、私にとってとくに忘れがたい思い出は、鳥取県でのホームステイの日々である。

このたびの訪日のスケジュールにホームステイが入っていると聞いたときには、言葉も生活習慣も異なる者同士、互いに交流することはさだめし難しいだろうといろいろと気をもみ、ホームステイでどれほどの成果が得られるものか、正直いつて疑問さえ感じていた。しかし、ホームステイでの実体験は、私のこの考えを完全に覆すものであった。

私のホストファミリーは、小学校の教師で、32歳のきりりとしたハンサムだった。初めて顔を合わせたあの日の午後、互いに一面識もないにもかかわらず、「你好！」という彼の中国語、そして、「こんにちは！」という私の日本語が一瞬にして、私たちの心を近く近く引き寄せた。年齢がそれほど変わらないからか、または、同文同種であるためか、初めてのはずなのに、まるでどこかで会ったことがあるかのような気さえしたのである。

ホストファミリーの家に着くや、70歳に近い彼の両親と若く美しい奥さんとが、すぐに玄関まで出迎えに出て下さった。彼らの和やかで、親しげな笑顔を見て、私は別れて久しいわが肉親に会ったような感じを覚えた。その後私のために用意して下さった部屋に案内された。窓は明るく磨かれ、新しい布団とパジャマ、そして洗面用具にい

たるまですでに準備が整えられていた。家族の方々が私を受け入れるにあたって、こんなにも行き届いた配慮を下さったのだ。これを目のあたりにして、感激が胸いっぱい広がった。

歓迎の晩餐は大変なごちそうだった。一家三世代が皆私とひとつテーブルを囲んだ。言葉は通じないけれども、筆談と目の合図、そして身ぶりによる談笑を通じて、私たちの心と心はまたさらに一歩近づくことができた。異国で感じる疎外感や堅苦しきといったものは、ここに来てきれいさっぱり消し飛んでしまった。私たちは互いの出会いを祝して、そしてまた、それぞれの国、肉親のために、何度も何度も杯を重ねた。まさに「酒、知己に逢えば千杯干すともなお少なし」であった。彼の68歳になられるお父上は感激のあまりか、ご自分の酒量をやや超えて、つい酔ってしまわれ、ご自分のお部屋にひきとられた。

食卓での話はなおも尽きることなく、夜になってからも、私の部屋で、彼と私はさらに飲みながら筆談でよもやま話を続けた。互いの仕事のこと、生活のこと、志についてなどなど……。このとき、私たちはすでに言葉の障壁を完全に乗り越えていた。意気投合し、黙っていても心は通じ合った。私は彼よりいくつか年上であったので、互いに兄弟と呼び合い、これまで知り合う機会がなかったことを悔やみつつ、深夜まで語り合ったのだった。

翌日、彼は私を、牧場、農場、そして鳥取市内と日本海の海岸とを案内してくれた。また、日本の映画も一緒に見、この日一日私はまた多方面から、さらに日本を理解することができた。

短いたった2日間の出会いであったが、私は彼と義兄弟になった。別れの際、私たちはなおも名残が尽きず、なんとも別れがたかった。しかし、ご夫婦で中国旅行をされる来年の夏、北京で再び旧交を温めあう約束を私たちはすでに交わしているのだ。

ホームステイは終わった。だが、それは私に一

生涯忘れられない印象を残した。私はホストファミリーの中国人に寄せるご厚情を通じて、日本の人々の中国人民に対する深い友情を感じ取ることができた。私は中日の友好がとこしえに続くことを心より願うものであるが、また、私自身もそのために積極的に貢献する覚悟である。

国際協力事業団と日本ユネスコ協会連盟が私たちの訪日に際して進めて下さった行き届いたご手配に対し、衷心より感謝申し上げる。

## 訪日雑感

許俊

経済青年グループ



私は初めて海外視察に参加したのである。1カ月の間、講義と座談会および見学、合宿、ホームステイなどの活動を通じて、日本の経済、文化、風俗習慣そして日本の青年が今何を考えているかについてある程度知ることができた。とくに、日本の生産力、科学技術および社会運営をこの目で確かめることができた。そのすべてから深い感銘を受けたが、私を最も考えさせたのは、日本経済を成功させたあの国民全体がもっている仕事に対する責任感の確立である。

この1カ月間、どこへ行っても、訪問日程の公式活動にせよ、日程外の個人行動からの観察にせよ、私が気づいたのは、日本人がどのような職業であろうと、仕事を始めたらみんな真剣な態度で完璧さを追求するのである。

ある日、私は池袋から電車で新宿に向かった。ちょうどそのとき、身体障害者がひとり車椅子で駅に入った。すぐ数人の駅員が駆けつけてきて、彼が乗った車椅子を階段の上まで担いで上がり、電車に乗せた。それから駅員たちは、目的地の駅に電話で知らせた。電車が目的地の駅に着くと、また数人の駅員が電車の中に入って、車椅子を担

いでホームを降りた。私にとって大変印象深いできごとである。このような行為はただ仕事に対する熱心さ、または道徳的自覚だけで解釈できるものではないと私は思う。これは仕事に対する責任感から出た自発的な行動であると思う。

それでは、日本人の仕事に対する責任感はどのようにしてできあがったのであろうか？ 金銭的利益があるから、と誰かがいうかもしれない。しかし、資本主義社会ではお金がないと何もできないことにしても、このような解釈のしかたは簡単すぎるのではないであろうか。私の考えでは、それは戦後日本が国家、民族および個人の生存に関する危機意識教育を一体化させることに成功し、「頑張る」ということが人々が仕事をするときの自発的かつ共通の規則になり、頭の中に深く刻み込まれたおかげである

この意味からいえば、経済の発展と教育の発展が密接な関係がある。なぜなら、教育はただ知識の伝授だけではなくて、人々の総体的素養の育成、とくに仕事に対する責任感の育成にも役立つのである。これは、今回の訪日で一番深く感じたことである。

## 日本で見たこと感じたこと



楊 筱懷

経済青年グループ

“日本”。これは幼年時代から私の脳裏に深く刻み込まれた言葉である。なぜなら祖父も父も皆、中国北方で当時の抗日積極分子だったからである。時が経つにつれて、私のこの言葉に対する理解にも変化が生じていた。そしてついに、私は35歳でみずからこの日本という国に来て、多くの日本人を知る機会を得たのである。知り合った日本人のなかでも松尾康夫さんと今井清二さんのおふたりが私に深い印象を残した。

松尾康夫さん——福岡で私がホームステイした先の御主人である。当年50歳。中学時代より中国の歴史と文化に心を奪われている。彼と彼の部下である井上和美とは中国文化に対する共通の趣味のため、年の差を越えた友情で結ばれている。私が訪問する以前から私に対する質問事項をたくさん用意していた。ホームステイの2日目、通訳の朴麗花さんの助けを借りて、私、松尾康夫さん、夫人の加代子さんと井上和美さんは一日中語り合った。古くは春秋戦国から、近くは清朝末期、民国まで、孔子孟子、仏教や儒学、孫文、蒋介石、毛沢東、周恩来などおよそ彼らが関心のある中国の歴史文化について、すべて語り尽くした。彼らの中国の歴史文化に対する探求精神と知識の深さは、専門家ではない一般の中国人にもあまり見られないほどのものだった。彼らは“忘八一王八”（中国古代文化人が“仁義礼智忠信孝悌”を忘れた者を忘八と呼んだ）の意味の変遷すら知っていた。

福岡を離れる日の夜、松尾夫妻、井上和美さんと朴麗花さんの一行がわざわざ見送りに来てくれた。別れ際、重なりあった手と手は容易に離されることはなかった。松尾康夫さんと井上和美さんは、「今、中国は比較的貧しいから、一部の日本人は中国人をバカにしているけれど、まともな日本人は皆わが師が強くなることを望んでいます。過去100年あまりの間に、学生が先生を殴るようなことをしました。日本人は中国文化が日本文化にもたらした、たとえようもないほどの恩恵を忘れてはなりません。日中両国は永久によき友であるべきです」。この言葉を聞いて私は熱い涙を流した。松尾さんも井上さんもまた感動していた。私たちは重なりあわせた手を揺すった。

今井清二さんは広島大崎町に住むガソリンスタンドの経営者である。年は60近い。冗談が好きである。酒場で酒を飲むとすぐ、中国語で「私は正真正銘の中国人だから日本語はわからない。おねえさん、ビールをもう2本」などと言いはじめる。

今井さんと知り合って5年になる。あれは彼が初めて北京に行ったときのことで、「謝謝、你好」の4文字しかわからなかった。その後、中国に行くたびに、彼の中国語は長足の進歩をとげた。1989年以後、今井先生は中国を訪問しておらず、私たちの間は文通のみとなった。彼は以前は農民で、大学にも通っていないし、専門学校で外国語を学んだこともない。しかし、彼が中国語で書いた手紙は、文法、言葉遣いの誤りを見つげだすことができないほどだ。

別れて3年後、広島で再会し、今井さんはすでに自由に中国語で自分の考えを表現することができるようになっていた。会うとすぐ彼は私にこう言った。「広島で1晩だけというのは短いなあ。日本食をごちそうしよう、人は多ければ多いほどよい」。その晩、4時間あまりの間に、高級レストランからふつうの食堂まで何軒かをはしごし、さまざまな風味の食事をし、まったく雰囲気の違いの違う2軒のカラオケに行き、またパチンコにまで行って、かなりの出費であった。私は申しわけなく、彼にそんなに散財しないでほしいと言ったが、「かまわないよ。お金を使うのはあなたたちを楽しませるためではなくて、あなたたちに日本の社会、ふつうの日本人の実際の生活を理解してもらうためのだから」と言って手を握った。

同行した広島に留学している中国人留学生の陳曙銘が言うには、「今井先生は中国人留学生には大変親切です。しょっちゅう中国の友人を広島に遊びに連れて行って、ご飯を食べさせてくれます。車で行く留学生には、毎回ガソリンを満タンにしてくれ、しかもお金を受けとらない。これは日本では聞いたことがない珍しいことです。中国人留学生は、今井さんは日本らしくないと言っています」

その実、今井さんは正真正銘の日本人だ。中国伝統文化の薫陶を受け、中国人民に友好的な日本人なのだ。聞くところによると、広島に留学して

いる多くの中国人留学生、はじめは台湾の青年、ここ数年は北京、上海、浙江省の青年の面倒を熱心にみている。帰国した博士や修士たちは今でも彼と手紙のやり取りをしている。彼の心は中国人のなかに溶け込み、中国の災難に憂い、中国の発展に喜ぶのである。

今回別れるとき、今井さんはいつもの冗談交じりで私をじっと見ながら、「日中友好は日中両国人民の歴史上の責任である。日中友好は日本および中国にとって重要なばかりでなく、東方世界および全世界にとっても欠かせないものだ。私は日本を愛しているし、中国も愛している」と言った。

今井さんの話は日中友好に熱心な、中国文化を愛する日本人を真に代表しているのかもしれない。世界は発展し、日本と中国も発展している。発展には各国人民の努力が必要であると同時に、国と国、人と人との間の友情が必要であり、そのような友情には千人万人の松尾康夫さんと今井清二さんが必要なのである。

中華全国青年連合会「中華児女」雑誌社 副編集長

## 日中両国人民世々孫々の友好を願う

史 巧玲

教員グループ



今回、「日中青年の友情計画」に参加できてうれしく思う。教員グループの一員として、日本の小・中・高・大学等の見学および交流を通じて、日本国民の親切、高度に発達した日本の社会、日本の美しい風景が、深く印象に残っている。

日中両国は一衣帯水の友好国である。両国人民は2,000年の交流の歴史があり、共同发展、深い友情で結ばれてきた。日本滞在期間中、協力団体のご尽力により、私たち一行は日本の教育者および社会人たちと交流ができた。子供から老人まで幅

広く交流でき、そのなかでも同じ年代の青年たちとは、初対面にもかかわらず、まるで親友のような親しみを感じた。

昼の上での討論会では、青年たちと過去、現在、未来について語り合った。言葉が通じなくても心が通じる、まさに「以心伝心」交流を通じて、互いに理解を深め、友情を保つことができた。

1カ月という短い期間に、教員グループの一員として、北の青函トンネルから南の広島まで、きれいな岩木山から雄大な太平洋、近代的な都会からよく発達した農村、政府機関の建物から民間の住宅、それに、日本の歴史、現代産業および日本の経済、教育現場と多くの名勝を見学し、日本の人情、文化、伝統、風土などについて理解できた。

中国では「他山之石」ということわざがある。帰国後、日本で見たすべてを同僚と友人に紹介するつもりである。たとえば、国家建設、とくに発達した教育分野での経験と方法を学んだ。ホームステイおよび合宿討論などで知り合った日本青年と友達になり、これからも連絡をとりあって、きっと、いつか中国で皆さんと再会できる日が来ることを望んでいる。

今日、私たちは、日本の1カ月の友好交流を無事に終了し、まもなく日本を離れるが、私はとても名残惜しく感じる。行った先の嵐山、広島平和公園の少女銅像、青森のねふた祭り、青森で降った雪、日本青年との合宿討論、ホストファミリーの家族、茶道体験、手に持った中国旗を寒さに負けずに振って私たちを熱烈歓迎してくれた小学生たち……すべて、忘れることができない。

21世紀に向かって、私と多くの日中青年は、同じように歴史の責任をより強く感じた。青年には明日がある。今日のこの友情の基礎の上に手と手を取りあって、未来に向かって、ともに輝かしい明日の到来のために、最大の努力をするつもりである。日中平和と友情のきずながいつまでも続き、また日中両国人民の世々孫々の友好を願うもので

ある。

## 相通ずる心の窓を開く



梁 建敏

教育グループ

幸運にも中国青年友好訪日団の一員として日本を訪問した。

「日本の社会と文化」「神奈川県教育概要」等講演を6回聞いた。また、日本青年との合宿、民宿を通じて広範囲かつ直接的な交流を行った。東京、横浜、青森、広島等11カ所の都市で小・中・大学、特殊養護学校を参観した。短い1カ月だったが、多くのことを見聞した。それによって日本と心相通ずる窓が開かれた。

日本に対して印象深かったことが三点ある。まず、経済の急速な発展と国民教育の向上があいまって進められた。にぎやかな銀座の夜店、新宿に林立する高層ビル群、高速度の新幹線、瞬時を争う株の取引所、追浜自動車工場のオートメーション化、そして科学の先端技術や急速な経済発展を見聞した。機器、また衛生の面でも念入りに研究を重ね、交通安全を重視し、行き届いたサービスをしている。人と人との間であい保たれている礼儀をみて、日本人は教育レベルがわりあい高いと感じた。

二点目は、強烈な先進化意識と伝統的な民族意識が同時に共存していること。日本人のリズムの速さ、時間を守り、生産、技術、実務をしっかりと行っていること。また、新しいものを創造する精神があり、東西の先進的なものをうまく吸収しそれを融合している。その証拠に茶道、華道、書道、武道、民謡や郷土資料館等でその事実をみることができた。これらの伝統文化のなかに、多くの強烈な民族意識を体現していることが見てとれた。旅行中、ちょうど相撲競技が行われていて、テレ

ビではその伝統的な競技と現代的かつ多様なニュース、広告が大量に放映されていた。これもひとつの例である。このように丸ごと受け入れ、継承発展させて一体化させるという考え方は参考に値する。

三点目は、国民の教育と社会の発展が密接に結合していること。日本の復興と基礎教育を重視することはけっして切り離せない。明治維新後、日本の義務教育は完全な教育法規を持ち、経費、管理体制、そして学制についても保証されている。日本の学校を訪問してわかったことは、日本の教育方法が学生の能力、素質、個性を重んじているということだ。教育と経済建設の相互結合を重視し、かつ完全な教師の試験、雇用制度を備えてい

る。これらすべてが堅実な基礎となって日本の教育を発展させた。

もちろん日本は人口が減少し、高齢化を迎えている。地価が高騰し、天然資源がわりあい少ないことも、まず解決しなければならない問題である。東京、大阪の繁栄、広島の清潔で美しい街、青森のリンゴと現地の人々の熱情、京都の伝統ある古くて素朴な景色など私の脳裏に深く刻まれた。

中国と日本は隣国である。上海は日本に連なる窓口である。上海の一青年として、中日友好事業のために真に力になることは理にかなっている。21世紀のアジアの繁栄のために、中日両国青年の皆さん、よりがっしりと腕を組んで前進しよう。

### 3. 合宿セミナー参加日本青年の声

#### 合宿セミナーに参加して

習田 恵三  
公務員

11月15日～17日にかけて、神奈川県にある相模湖トリム研修センターにおいて開催された中国公務員との合宿セミナーに参加して、大変有意義かつ自己の認識を改める機会が持てたことをうれしく思い、この気持ちを書き留めておくため筆を執ります。

私は中国という国に対してのイメージは、このセミナーに参加する前とあとでは自分のなかで大きく変化していたことにまず気がつきました。参加前は漢字のみの世界に触れることに関しての若干の不安と、現在の日本と比較してあまりにも違う生活習慣、思想（個人的に思っているだけである）、経済観念等だけが頭中を駆けめぐり、セミナー開催中の3日間を無難に過ごせればよいと思っていただけであったのに、私以外に参加された日本側の皆さんおよび中国側の皆さんのこのセミナーに期待する熱意および積極的な行動に、いつのまにか自分も吸い込まれて、一丸となってその瞬間を過ごせたことにいまだ深い感銘を覚えております。

今回のセミナーのメインテーマであった「21世紀の日中友好を考える」という漠然とした課題に関して言えば、あまりにもテーマが大きすぎて、的を絞った討論ができなかったことは残念でしたが、友好という意味の重大さを改めて認識できたことが、私にとって一番の収穫であったと感じており、以下に記述します。

「友好」という言葉を辞書で引くと友達としての

つきあい、親善等の意味が挙げられますが、日中間が友達としてのおつきあいを始めたのは、1972年の日中国交正常化以後になるのでしょうか？

私が考える「友好」とは次の2点に重点を置きます。

①支援……経済的な支援も大切ですが、支援される側が本当に望む支援を行うことが必要であると思います。また、支援する側は物理的な支援をする場合、その支援に十分対応できる体制を支援される側に供給しなければ、真の支援とは言えないと思います。

②交流……両国間の人的交流をよりいっそう活発にし、お互い、自分の意識の中に欠落している点があれば、補い合う必要があるのではないのでしょうか？これに関連して今回私が痛切に感じたことは、言葉の壁であり、自分の意思が正確に相手に伝わっているのかどうか大変不安でした。中国側の皆さんも同様に感じておられることと思います。今後の課題として、個人的な意見を述べますと、相手国の言語がしゃべれるにこしたことはないでしょうが、そうでなければ、世界共通語といわれる英語をマスターする必要はあると思います。

ほかにも今回のセミナーで得たものは数多くありますが、このふたつが印象に残っています。また、私が中国側の皆さんと交流していて恥ずかしいと感じた点がひとつあります。それは、同世代の青年同士でありながら、私は自分の国、日本の政治的、社会的思想をまったく理解していないことを改めて痛感したとともに、今回のセミナーに参加するまで、その必要性を感じなかった、感じようとしなかったことが大変恥ずかしく、かつ中

国側の皆さんに大変申し訳なかったと思っております。今後このようなセミナーに参加する機会があれば、そのときこそ自分なりのしっかりした意見、考えを主張し、またそれが少しでも、友好の架け橋になればと願いつつ、今回の感想と致します。本当にありがとうございました。 再見

## 合同セミナーに参加して

荻田 英俊  
会社員

11月15日～17日間、「21世紀のための友情計画」の訪日中国青年代表団25名一行の日本ユネスコ協会のプログラムとして、丸亀市手島自然教育センターで2泊3日の合同セミナーが開催された。

私は、会社での国際交流活動が認められ、丸亀ユネスコの紹介で参加することになった。

中国といえば、昭和59年に胡耀邦総書記の招きにより、「中国友好交流」の3,000名の一員として参加した。熱烈歓迎を受け、あのときの感激と中国青年の顔が今でもまぶたに焼き付いている。

今度は、私たちが少しでもお返しをしたい気持ちで合同セミナーに臨んだ。

参加するにあたり3つの目標を立てた。

- 1、参加者全員が深い感動をもち、印象に残る行事を行う
- 2、日本・中国の青年が互いに理解し、信頼しあい、友好を図る
- 3、地方プログラムにおいて、戸惑うことがないように風習・生活様式を認識してもらうこと

そのためには、なにごとにも積極的に協力・行動することとした。

事前研修において、中国からの留学生林さんの中国青年の考え方、生活様式等を知ることができた。プログラムづくりでは、みんなが楽しめる行事として、讃岐名物の手打ちうどんの教室を開こうと提案すると、林さんは水ぎょうざを作ってく

れるとってくれ、日中料理教室の開催となった。セミナーにおいて、大変好評で和気あいあいと楽しくできた。

また、参加者の中でもリーダー的存在となり目標に向かって活力がわいてきた。

合同セミナーでは、手島への船上で、覚え始めの手品を披露して心を和ませる努力をした。初日の歓迎の夕べでは、夜遅くまで交流を深め、とくに訪中したときの上海での責任者に会うことができ、あのときの感動と苦労話を聞くことができ、改めて参加の喜びを肌で感じた。

2日目の午前中は、日本青年から出た5つの討議内容による分科会を開き、わが班は「日中の風俗習慣について」を、私の司会によりとくに衣・食・住の違いについて討議した。理解を深め、グループ内の和ができた。昼前から日中料理教室を開き、私は手打ちうどんを教え、中国青年には水ぎょうざを披露してもらい、おいしさに舌鼓を打ち、楽しいランチタイムを過ごした。夜は、中国側から出た5つの討議内容での分科会で、グループを変え実施した。共産主義の考え方の違い、考察力の鋭さに触れ、真の理解がもてた。

最後日の全体会では議長を勤め、分科会の討議内容の発表をまとめ、有意義なセミナーができた。

中国の友人もでき、世々代々友好を続けることを約束し、再び会えることができるよう「再見！」を何度も繰り返しながら別れた。

隣国の青年たちがお互いに理解し合い、暗い過去を和らげながら、堅いきずなを結び、長く交流を持ち続けなければならないと感じた。

今後の活動において、このセミナーでの体験を活かし、身近に国際交流を考えユネスコの仲間たちとともに、大きく飛躍したい。



## 素晴らしい仲間へありがとう

遠藤 太  
会社員

この2泊3日の合宿セミナーを終え、口では言い表せないほどの充実感を身をもって体験できたことを感謝するとともに、誇りに思っています。

口では簡単な国際交流ですが、いざ、実際に体験するととなると、私に本当にできるのだろうか、ましてお互いの友情を深めることなどと、ただ不安と緊張がつきまとっていた、そんな気がします。

しかし、実際に中国青年に会って話をし、張り詰めていた緊張感はいっぺんに解消され、日ごとに親近感へと変わっていくのを感じていました。それは私だけでなく、日本青年の誰もが感じていたことと思います。中国青年の方々のあの温かい笑顔は今も忘れることができません。

3日間という短い期間ではありましたが、数多くのふれあいがあったことは確かです。中国語と日本語で大合唱した「北国の春」「四季のうた」、心がひとつになれたフォークダンス、今でもあときの体験は、熱い心でよみがえってきます。

また、時間が許すまでもに語り合ったこと、古くからの友人のようで愚痴を聞いてもらえそうな、そんな気さえしてきました。どんな話題でも真剣に、ときには笑い、日中両国の青年が夜遅くまで語り合ったあとき、国はどうあれ、政治、文化はどうあれ、そんなことは抜きにしたわれわれレベルでの心と心の交流ができたことを、ひとりひとりが忘れずにいつまでも心に刻んでほしいと、私は願っています。

中国青年の皆さん、日本青年の皆さん、素晴らしい友情と思い出をありがとう、心からそう言いたいと思います。

わずか3日間ではありましたが皆さん、

「どんな人と出会いましたか」

「何人の顔を覚えましたか」

「何人の名前を覚えましたか」

「積極的に行動できましたか」

「どれだけ自分の意見を出せましたか」

「どれだけ楽しかったですか」

この体験、人とのふれあいは、われわれの素晴らしい財産となることでしょう。

日中両国がこれからも今以上に友好を深め、ともに発展していくことを願わずにはいられません。

最後に、素晴らしい仲間と出会えたこの3日間を感謝するとともに、国は違えど、両国の各職場で活躍する仲間の健闘を祈って……乾杯。

## 「21世紀のための友情計画」に参加して

川津 悦子  
会社員

21世紀までに10年を切った。「21世紀の生活は？」「21世紀に望むこと」など会社や友人と議論してきた私ではあるが、ふと自分の生活を顧みみると、希望だけであって、なんら変化への対応がなされていない昨今である。

私はひよんなきっかけで、知識のないまま今回「21世紀のための友情計画」に参加した。ボランティア意識、外国人との交流ということのみに興味をわいて、軽い気持ちでの説明会への参加であった。

「経済青年」「招へい」といった耳慣れない用語が飛び交っている。中国青年の交流ということで、中国の社会、経済、風俗、生活について予備知識をつけたが、未知の世界ばかり。しかも言葉の隔りがある。いささか不安だった。

まず、箱根に向かうバスの中での自己紹介のときから、中国青年と日本青年の意識の違いを感じた。自分の紹介を通して自己をピーアール、愉快に表現する彼らは、国の代表としてきちんと目的を果たそうとしている。2日目のミーティングでも、日本青年はラフな出で立ちで、スエット姿も

いればGパンの者もいる。ひとりもネクタイなんてしていない。

一方、中国青年はスーツにネクタイで、姿勢を正してミーティングに臨んでいる。話題も国の経済、政治のことであり非常に堅い。中国青年からのつまんだ質問にきちんと答えられない私たちが「そこまで考えなくても……」と質疑応答を中断する。そんなやりとりだった。しかしながら、2泊3日、私たちは彼らと接し、考え方を聞き、自分の意見をまとめていくうちに、少しずつ何かが変わっていく。そして、彼らも少しずつ変わっていったように思う。

われわれはもう少し未来を考えてひとりひとりが行動していかなくてははいけないし、それが将来の日本（アジアまで？）を少しずつ変えていく糧になることがわかった。彼らも、われわれの生活のしかた、経済的に発展した人々がとる行動様式を理解できたのではないか。

不思議に議論が白熱したとき、話題は「愛について」だった。人々の意識の根底には、優しい心と愛があり、それは人類が発展しても、共通、不変なものなのだろうと思う。私たちのグループ以外も最後は愛の話だったそうだ。

たった2泊3日の共同生活。通訳を交えてのコミュニケーション。しかし、12月4日のお別れパーティーで再会したときのうれしさは格別だった。中国青年の笑顔、くったくのない態度、すべてがあったかい。そして、私も同様に彼らに笑顔で優しく接することができた。議論したこと、生活をとにしたことが何の役に立ったのか、そう質問されても有形の答えはない。

われわれはアジア地域を見直し、違う文化を持った人々がそこに存在し生活している、しかも発展のために努力している人がいる事実を知ることができた。

一番良かったことは、われわれ自身を振り返れたことである。さて、彼らとの「友情計画」は今

後どうなっていくのだろうか。私自身個人対個人のみ関係でなく、日本対中国として考えたいし、もちろん、今回知り合った中国人との友情を細く長く続けていけたらと考えている。

ひとりでも多くの日本人がこの計画に参加すべきであろうし、「21世紀のための友情計画」の目的に賛同できる人を募集する方法をもう一度見直しする必要があるだろう。10年後の私。友情から次のステップに移って、今回の合宿が活かされた活動を行っているようにしたいと思う。

## “一期一会”の出会い

近藤 真由美

公務員

中華人民共和国との国際交流セミナーは、11月15日から17日までの3日間、富士箱根ランドで開催された。

私は勤務先（衆議院外務委員会調査室委員会）より、合宿セミナーに出席するよう命ぜられた。しかし、国際交流のための合宿セミナーがどのように開かれ、わずか2泊3日の短期間で何を「交流」するのか、さらに情報が多様化するなかで、日本の置かれている国際環境を、私自身がどのように理解し、それを相手側にどう説明することができるのか、また、交流の媒体であるべき「言葉」は、どうするのかなど不安を抱いて出席した。

日本には「案ずるより産むが易し」という言葉があるが、まさにこの言葉どおり、セミナーに出席してみると、いつの間にか私の不安は雲散霧消していた。

ディスカッションのテーマは「日中友好に必要なもの」であった。

私は、学生時代、中国との関係を考えるとき、「友好」の二文字を抜きにすることができないことに疑問を持っていた。社会人になってから勤め先の先輩に、中国以外の人たちとの交流も同じ「友

好」が必要であるのに、中国についてはことさら「友好」を主張しなければならないのはなぜかと質問してみた。先輩はこう言った。「日中両国民は2,000年近くも極めて友好親善の関係を持ち続け、わが国の思想や文化に大きな影響を与えてきた。しかし、最近の100年は、以前の中国尊敬から一変して侮蔑となり、やがて侵略となっていった。その過程のなかで、われわれ日本人は、中国の人々ばかりかアジアの人々に対し大変な苦痛と悲しみを与えてきた。だから、その反省の上に立って2,000年の“友好”を取り戻そうとしているんだ」と。

そんな歴史的重さのある「友好」に対する「必要なもの」をどう話せばよいのか不安であった。しかし21世紀にはばたく日本と中国の青年が、お互いに向かい合い、語り合うことが、すでに日中友好に「必要なもの」であることに気づいた。

たしかに、私たちの持っている価値観と中国の青年たちの価値観は異なっている。現在の私たちの価値観に、ひとつの哲学や歴史観があるだろうか。それに対し、中国の青年たちと意見を交換するなかで、彼らが、自国の現状に正面から向かい合い、将来に真剣に取り組もうとしている姿勢が、ひしひしと伝わってきた。だから、私の持っているいわゆる価値観が、薄っぺらいものに思われてならなかった。

フリー・トーキングになると、中国の人たちから身近な疑問が提示された。曰く「日本人の仕事熱心はどこからくるのか」。曰く「日本人はなぜ転職をしないのか」。曰く「社員の労働意欲を高める秘訣は何か」。曰く「アフター5は何をしているのか」などなど矢継ぎ早の質問に対して、どう答えてよいかわからなかった。

日本で生活している私たちにとってあたりまえと思うことが、彼らにとって不思議だと思うことは多いだろう。セミナーに参加したことは、私にとっても異文化体験であった。意見交換のなかで歴史のなかから出てきた「友好」という二文字の

重さがわかり、私たちひとりひとりが力まずに「友好」を育てていかなければならないと思った。

私は、大林宣彦監督の「北京の西瓜」という映画を見たことがある。ストーリーは、日本に留学してきた中国青年たちと彼らにあれこれ援助する八百屋のおじさんとの心のふれあいを描いたものだ。「国際交流」などと大げさに構えるのでなく、ひとりひとりの人間が、お互いを理解し、感動し、それを大切にしていくことが、友好を深めるということなのだろう。映画で最後に流れた「大海、故郷」の歌が、友好交流パーティーで流れたときは、思わず目頭が熱くなるような大感激を覚えた。パーティーで私はスピーチをした。

「日本の茶道に“一期一会”という言葉があります。一生にただ一度の出会いという意味です。その出会いから始まる友情は、手をつないで広がり、時をつないで続くものと信じます」

中国の友人たちとの「一期一会」の出会いが、いつか「大海」に注いで、日本と中国との間に友好の波濤をもたらしてくれることだろう。

---

## 吹き飛んでしまった不安

木下 真佐子  
会社員

初めて中国の皆さんとお会いして、出発のバスに乗りこんだときには、「中国語もわからないのに、どうやってコミュニケーションしよう……」と不安だった私ですが、2泊3日後に帰ってきたときには、皆さんのお別れが名残惜しく思われるのですから不思議なものです。

2泊3日の間にはいろいろなことを体験しましたが、私は同室の李さんとのことを書こうと思います。最初に李さんにお会いしたとき、聡明そうな優雅な女性という印象でした。

荷物を持って部屋に入り一息つくと、私は何を言ってよいやら緊張してしまい、ただニコニコす

るのがやっとでした。李さんが窓の近くで「ビューティフル」とつぶやいたのが、とても心に残っています。私はすぐには何と言ったのかわからず「えっ」と振り返ってみると、窓の外の緑の山々が目にはいりました。「あー、彼女は英語で、ビューティフルと言ったのだ」と理解したとき、彼女の気持ちが伝わってきて、やっと初めてコミュニケーションできたのだ、とうれしく思いました。

1日目の夜が明けて、2日目、李さんが旅の疲れかあまりよく眠れなかったようすなので、「言葉の通じない私と一緒にリラックスできないのではないか」と心配になっていました。その夜、李さんはホテルのメモ用紙に何やら中国語で書いて私に渡すのです。内容を一生懸命に説明してくれましたが、私には、「友情の気持ちを書いて下さったのだな」という漠然としたニュアンスしかわかりません。

食事のあと通訳の徳山さんにそっと紙を見せて教えていただくと、「あなたと同室でよかったです。中国にいらしたときには、ぜひおたずね下さい」といった内容だとのことでした。私はとてもうれしくなり、心配していた胸のつかえもすうーっととれたように思えました。

そのあと、李さんと私は、部屋で夜遅くまで話をしました。会話の内容は「ふだんは朝何時に起きるのですか?」とか、「土曜日はお休みですか?」とかいたって簡単なのですが、手ぶりと筆談プラス中国語、日本語、英語交じりなので、時間がかかります。それだけに、自分の言いたいことが相手に伝わったときには、ふたりとも大喜びして、とても楽しいひとときでした。

言葉が通じなければコミュニケーションは絶望的、と思っていましたが、わかりたい、わかってもらいたいという気持ちが知恵を働かせ、なんとか伝わるものだと実感しました。中国の皆さん、これからのご活躍をお祈りいたします。

## 夢のような3日間

渡辺 多香子

会社員

現実なのに現実でなかったような3日間……。変な言い方ですが、これが私の合宿セミナーにおける実感です。ふだん、仕事に追われてしまっている身の私にとって、身近に起こるほんの小さなできごとまでが新しい発見だったからです。子供のころなら、なんでも立ち止まって見たり考えたり驚いたりしたことでも、時間に追われる毎日のなかでは、目に留めることもしなくなり、見ることさえ忘れてしまうことがよくあります。無邪気に感動するということには、いつまでも素直でいたいと思っています。社会に出て年が経つほど、新しい友達をつくるのは難しいこととずっと思ってきましたが、今回の合宿経験で「友人」という私のなかでの定義が少し変わったような気がします。

同室の謝さんと知り合えたことは、貴重な思い出となりました。お互い言葉が通じず、一生懸命身ぶりや手ぶり、筆談……。はては通訳の方のご協力を得ての会話でしたが、謝さんの温かさは、そのもどかしい思いを越えて感じられる信頼感がありました。一緒に部屋で歌ったり、あいさつの言葉を教え合ったり。テレビ番組「大江戸捜査網」の意味を聞かれて困っちゃったり、納豆を一粒一粒食べる謝さんに、食べ方を実演してみせたり……と、ちょっぴり苦しい場面もありましたが、皆、写真の一枚一枚のように記念に残るひとコマです。

帰るとき、通訳の方を通して「妹のように想っているから、ぜひ今度は家へ来てね。おいしいお料理をたくさん作るから」と言ってくれた謝さん。泣き虫の私は温かい一言に、ついポロリ……としてみたいようで、こらえるのに一苦労でした。考えてみたら、こんな感情って、子供のころいっぱいあったのに、最近忘れがちになっていた気持ち

のように思えます。

笑顔と笑顔が行き交う3日間、スタッフの方々の御苦労は並大抵のものではないと思いますが、同時にとても感謝しています。そして私自身も、これからの生活のなかで、今回芽ばえた新しい友情をできる限り育てていきたいと思っています。

## 合宿セミナーに参加して

小原 孝子  
会社員

今、手元に合宿セミナーのときの写真が何枚かあります。芦ノ湖の遊覧船の上で撮ったもの、夜の交流会、そして分科会のときのものなど。ひとりひとりの顔が懐かしく思い出されます。どれも思い出深い写真です。

ただ、写真には残っていませんが、とても心に残っていることがあります。

2日目の晩のことです。キャンプファイヤーも終わり、部屋に戻ってのんびりしたところでおしゃべりは始まりました。同室の張さんは、家庭を持ち、子供を育てながら、責任ある仕事をこなしていらっしゃる方でした。最初は住んでいる場所や、家族の数といった身の回りのことを話していましたが、話題はしだいに広がっていきました。

「子供のことが思われます。もう家を離れてだいぶたつんですもの」と話す彼女の顔はお母さんの顔。仕事について話す彼女の顔は職業人としての顔。私のつたない中国語力では、意味を理解できないことも多く、また自分の考えたことが思うように伝わらないこともしばしばでしたが、筆談も交えながら、いつしか彼女の話にひきこまれていきました。

そして最後には、まだ独身の私に対して、男性とのつき合い方、そして結婚相手のみつけ方といった話にまで発展し、おしゃべりは夜中の2時過ぎまで続いたのでした。話をしていくなかで、い

つの間にか言葉の違い、住んでいる場所の違いを越えて、張さんがとても近くに感じられるような、そんな気がしました。

張さんは、中国の山西省に住んでいらっしゃるそうです。中国の山西省の太原というところ、今までは遠いところであり、自分とは関係がないところのように無意識のうちに思っていた場所でした。それが、張さんが暮らしていらっしゃる場所、と考えるだけで、何だかとても身近に感じられるようになりました。

## 相互理解のためのよい体験

垣本 豊  
会社員

11月15日(金)朝8時40分。集合場所の池袋プリンスホテルに到着した私は、非常に緊張している。こんなに不安になるのは、会社の新入社員研修以来だ。

10月25日の事前研修の際、手渡された中国青年経済考察団の名簿を見て驚いた。会社社長や団体の代表などいわゆる「お偉いさん」ばかりである。平均年齢も37歳と日本側より10歳ばかり上だ。事務局の斉藤さんや昨年も参加した人の話によるとみんな気さくで良い人ばかりだそうだが、心配だ。とりあえず、その日にもらった冊子「絵ときガイド—中国—」を精読し、中国語の勉強もしようと心に決めたのだった。

池袋プリンスホテルのロビーで、私は反省している。結局、冊子は一度流し読みしただけ、覚えた中国語は「你好」「謝々」「再見」の3つだけだ。この3つは以前から知っているから、正しくは何も勉強していない。このような状態で中国人ふたりと相部屋で、2泊3日の合宿セミナーを乗り切ることができるのだろうか。受付の周りではすでに日中両国の参加者が数人談笑している。私も開き直って話の輪に加わると、どうやら英語が飛び

交っているみたいだ。メモとペンで筆談もされている。これはなんとかかなりそうだ。中国の参加者と名刺交換をし、会話を交わす。ホッとすると同時に早く出発したくなる。私は気持ちの切り替えが速いのだ。

箱根への車中での自己紹介、昼食、富士箱根ランドへ到着後のスポーツ交流、パーティーなど、実に楽しく過ごす。とくに有意義なのは、少人数のグループに分かれての討議と部屋での同室者との会話である。

グループ討議は「日中友好に必要なものは」との議題で、通訳が付くのでかなり突っ込んだ内容の話ができる。私は人事部で採用を担当しているので、中国の企業のトップから聞く中国の労使関係の話は大変興味深い。また、中国側から「なぜ日本人は中国についてもっと知ろうとしないのか」「欧米よりもアジアに目を向けるべきだ」といった辛辣な意見が飛び出し、日本側からも、日本の経済成長に関するネガティブな面を警告するなど、笑顔で握手するだけでは得られない相互理解を獲得することができた。

部屋での同室の中国青年ふたりとの会話は、英語と筆談に頼る。日本語と中国語は、お互いの不勉強のため使えない。話の内容は多岐に渡り、仕事の話から給料の話、テレビや映画、株、日中問題や当時の日ソ問題など、沈黙を恐れてとにかくしゃべり、書く。これで中国の人々の暮らしがある程度わかる。ただし、彼らは中国のエリート層であり、暮らしぶりはかなり良いほうだ。

そんなこんなで、2泊3日の合宿セミナーはあっという間に終わり、再び池袋プリンスホテルに戻り解散する（すぐには帰らず、みんなで飲みに行く）。

私はこのようなセミナーには今回初めて参加したのだが、次の機会にもぜひ参加したいと思う。その理由は、第一に良い経験になる。海外旅行の疑似体験ができるのである。第二の理由は、大き

な刺激を受けられること。今回の中国青年は若くして重要なポストに就いており、その向上心に触発され「何かやらなくては」という気が起きてきた。そして三つ目の理由は、日本側の参加者と友人になれることである。いわゆる異業種交流的な面もあるのだ。

## 中国人青年教師を受け入れて

川村 宏義

青森県青年海外協力協会

「21世紀のための友情計画」の一環として、青森県青年海外協力協会では中国青年の受け入れに参加しました。わずか10日間の交流でしたがとても楽しく、またふだんはできない研修ができました。一行25人は中等、高等の教育機関や、青少年活動に携わっている人々の集まりでした。

青森県では小学校や高校、そして大学や少年自然の家など青少年の教育に関する施設や機関での研修を多く行いました。そのなかでも、地元青年との合宿研修や地元教師との討議は短い時間ながら、中国側、日本側双方に有意義であったと思います。残念なのは、時間が少なかったことです。この点は地方プログラムを作った私たちの反省点でもあります。

また、討議をしていくなかで、私たちがいかに中国の事情について知らないか、つまり勉強不足であったか、逆に中国人教師たちがいかに日本について知っているかということが明確になりました。このことから、この「21世紀のための友情計画」は私たち日本人にとって、またとない国際理解のチャンスだといっていると思います。

私の家庭でもホストファミリーとして、ふたりの女性を引き受け、家族全員が楽しい2泊3日を過ごしました。ひとは中国語しか話せませんが、もうひとは英語も話せたので、主に英語でのやりとりとなりました。もっとも、漢字を

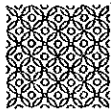
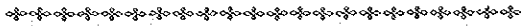
書いて理解しあうということが多かったのも事実です。この経験は、日本の文化は日本固有ものではあっても、広くアジアとの接触のなかでできたのだということを、いやおうなく実感させてくれました。

また、2日目の夜には、国際協力事業団を通じて青森で研修している中国青年も呼んでちょっとしたパーティーを開きました。そこで交わされた話のなかから、中国の広さが伝わってきました。料理の味から始まって、言葉や習慣の違いまでさまざまなことが実際に目の前で断定的に話されるのを聞くに及んで、中国の大きさ、歴史の古さ、

そして、現実にそのなかで生きている人々の多様性を理解せずにはいられませんでした。

「21世紀のための友情計画」は、日本人である私たちがアジアとの友情をつくっていくための場として、これからも大切にしていかななくてはいけないものだと思います。地方における家族ぐるみでの国際理解、国際交流の場としても評価されるべきだと思います。青森県の国際理解の現状から考えると、いましばらくは私たち地方に住んでいる青年海外協力隊OB、OGがその架け橋として活動していくことが意味のあることだという点も確認することができました。

## 4. ホストファミリーの思い出



### ホストファミリーを引き受けて

片山 優子  
青森県

初めホームステイのお話があったとき、こんな田舎で遠い所まできてくれるわけがないと思っていましたし、祖母が入院し母が付き添っているの、私ひとりの生活では、ホームステイを引き受けても家庭的なもてなしをすることができず申し訳ないと思っていたのです。

でも事の成り行きで、11月22日、ホームステイの相手の方を迎えに行く日がやってきました。私にとっては初めてのホームステイです。家の中を掃除したり、寝室を整えたり、時間がなくて車をきれいにできなかつたのが心残りでしたが、仕事を午前で終えて期待と不安の入り交じった気持ちで会場を訪れました。

相手の隔さんは私の心配していたことを快く了解してくれて、そして、都会的なところよりも自然のいっぱいあるところが好きだと喜んでくれたので、私の気持ちもずいぶんと楽になりました。

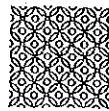
隔さんは日本語の通訳の方なので会話がスムーズにでき、親しい友達が遊びにきてくれたような、そんな感じで接することができました。3日間はあっという間に楽しく過ぎ去り、お帰りになるころには、もうずっと前からの友達のような感じでした。

その日は午後から雪が降り始め、帰り道、ふつうなら1時間半くらいの道程が4時間以上もかかってしまい、家に帰って隔さんの忘れ物を発見したときは、寂しさがこみあげてきました。

母のほうは、ホームステイの期間中、状態の悪い祖母が亡くなるようなことがあったらと心配し

て、夜も眠れなかったという話をあとから聞きました。でも祖母の入院で沈んでいた私の家族にとって、隔さんとの出会いはとても明るい話題となりました。

この小さな町に生まれて育ち、現在も生活している私にとって、出会いの場、会えることのできる人も限られています。今回のホームステイでの出会いを、これからも大切にしていきたいと思っています。



### 劉さんとの出会い

田村 佳子  
鳥取県

「ニイハオ」と笑顔を変わしはじまりぬ  
ホームステイの2泊3日

握手して緊張ほぐれ劉さんの  
横顔見つめ親しみ覚ゆ

くりかへしくりかへして覚えたる  
劉耀輝の中国名を

中国の刺しゅう工芸お酒等  
土産の山に言葉詰まりぬ

劉さんと囲む湯気たつおでん鍋  
言葉の代わりに笑顔と手ぶり

予想外の親しさ覚ゆ劉さんに  
おでんの鍋に箸ふれ合えば



くみ交わす酒に話の賑わいて  
中国日本更ける秋の夜

筆談の中国漢字に悩みつつ  
目と目で話す刻かけながら

息子や嫁と劉さん囲み筆談の  
メモとペンとのやりとりはずむ

過去は互いの裡にしまいき  
劉さん語る中国文化を

ほろ酔いの劉さん唄う中国の  
歌に手拍子肩ふれ合いつ

中国の主食は粥と聞きてより  
湯気たつ粥を共にすすりぬ

劉さんと牛ノ戸用瀬水源地  
六ヶ所めぐり一日が暮るる

劉さんと佐治に向かいし道の辺に  
山猿出でし歓声上げぬ

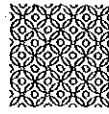
筆談の中に幾度劉さんの  
「歓迎中国」に胸篤くする

筆談の紙30余枚思い出の  
ひとつ残し劉さん送る

劉さんの有形無形の思い出を  
数多わが家のニュースとなせり

出発の車窓のり出す劉さんの  
振る手かすみて惜別の朝

\*\*\*\*\*



## 中国からのお客様を迎えて

遠坂 収  
福岡県

アジアの客人のホームステイは今回が3度目であった。最初はフィリピンの名門出身の万能青年——料理からピアノまでこなし焼き物も作っていた。次はモンゴルの地方都市からの中堅新聞人——彼が話せる外国語はロシア語だったから、まずはお互い難行苦行の趣であったのだが、海を見たいとの希望で志賀島に渡り蒙古塚に赴くと、麓の英文説明板を熱心に読んで、突き動かされたように石段を駆け上がっていった姿は、実に印象的だった。

さて、今回は中国からのふたりの客人——ひとりとは福岡訪問団の団長さんだとのことで、わが家はそんなに立派な屋敷ではないからと断りかけたのだが、30代前半で気の置けるような人ではないはず、それに通訳の介添えもあるのだから、との再度の要請で、ならばと引き受けたのだった。

かくておいでいただいたのは、中華人民共和国物資部辦公室主任・中国青年企業家協会副会長の何家成氏と中共中央対外連絡部日本課の王孝平氏であった。おふたりとも一目で礼儀正しい好青年だとの印象が鮮やかで、早速囲んだ夕食の席ではくつろいだ雰囲気でも話が弾んだ。

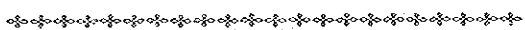
ちょうどその日、訪問団は市立博物館で開催中の「博多の禪」という展覧会を参観していたので、そのなかの絵の一枚に陶淵明が菊花をめでている図があったのにちなみ、その詩と、そして少年時に敗戦を迎えた私などにとっては想いも深い「国破れて」の詩を、日本語と中国語で朗読し、ひいては両国の現在の宗教事情や習慣、ものの考え方との異同等について話題は広がっていった。

さて、翌日は地元の新聞社に勤める徒弟の運転でドライブに出かけるので、私は留守役に回ったのだが——今朝の新聞でもラジオでも中国の経済

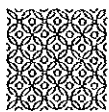
政策の転換が外電のトップで報じられていたとの  
徒弟の進進で、王君が記事の要点を団長さんに伝  
え、徒弟がコメントを加え始めると、何君はやに  
わにスックと立ち上がって、われわれ一同に新政  
策についての理解を強く訴えるのであった。この  
ときの団長としての決然とした真摯な態度は忘れ  
がたい。

もうひとつ印象的だったのは、孔子を祀る多久  
聖廟から吉野ヶ里までも回って、かなり遅く帰っ  
て来て疲れていただろうにもかかわらず、九大で  
経済原論を担当するマルクス学派の私の弟が待ち  
構えていたかのように、これまでと今後の社会主  
義体制のあり方について論陣を張ったとき、実行  
可能な諸施策で対処していく方針を、努めて冷静  
に語り続けた何君の応対ぶりであった。こうした  
雰囲気醸し出すには王君の態度もおおいに貢  
献していただろう。通訳としての立場に終始徹し  
ながらも、そこに人間的な大人の風格ともいうべ  
きものが加わるのだから。

こうして数日後のお別れ全体パーティーも含め  
た今回の交流は、以前にも増してアジアの未来に  
希望を抱かせる底の、誠に実り多い体験になった  
というのが実感である。



### 3日間の貴重な思い出



音成 玲子  
福岡県

このたび、中国青年招へい事業に伴うホームス  
テイプログラムに参加し、劉紀鵬氏と楽しい交流  
をさせていただきましたことを、まず初めにお礼  
申し上げます。

中国の方のホストファミリーになりましたのは、  
これが2回目です。また、この夏家族で北京に旅  
行したこともあって、中国はわが家にとって身近  
に感じられる国でした。

1日目の夕食、お鍋を囲んで話が弾み、互いに

打ち解け合うのに時間はかかりませんでした。北  
京旅行の話になったとき、劉さんが、「私と出会っ  
たあとに北京に来て下さればよかったのに……」  
といえば、すかさず主人が、「劉さんのほうこそ、  
どうして私たちが北京に行く前にうちに来てくれ  
なかったんですか」と切り返し、皆で大笑いした  
ものです。

劉さんは礼儀正しく、しかもその気配りたるや  
ホストの私たちのほうが頭の下がるほどでした。  
その一方で、日ごろ考えていること、疑問に思っ  
たことなどは率直に語られ、どこまでも追求され  
る前向きな姿勢が印象的でした。とりわけ、日本  
を含めたアジアの将来像について明確な意見をも  
たれていました。毎夜幾杯ものウーロン茶で喉を  
潤しつつ(これが中国式だそうです)、主人と談笑  
したものです。

2日目は、久留米市主催のハイキングに参加し、  
耳納連山の遊歩道をたっぶり歩きました。子供た  
ちも大自然のなかで大喜び。この日、劉さんがま  
ず驚かれたのは、市長さんが参加者に対してあい  
さつを述べられたときでした。中国では市長職の  
方でさえ、公衆の前に出てこられることはないそ  
うです。それで、ハイキング中に市長さんと少し  
お話して、一緒に写真に収まったときは、とても  
喜んでおられました。

次に驚かされたのは、自衛隊の人たちが豚汁を  
サービスしていたときのことで、中国の兵隊と  
混同されたのでしょうか。自衛隊について大変関心  
をもって質問されました。

その夜は、歌舞伎を見に行きました。「牛若丸」  
の話を通して、日本の伝統文化に触れていただけ  
る好機になったと思います。

3日目は、佐賀市に熱気球大会を見に行きまし  
た。ある子供の手から風船が飛び立ち「これがバ  
ルーン大会だ」と冗談言っていたら本当になり、  
強風のため競技は中止になってしまいました。

あっという間の3日間でしたが、子供たちとも

“日中のお菓子”をめぐって何やら楽しい言葉遊びが繰り広げられていましたし、中国語の“妻管厳”(チーグァンイェン、恐妻家)を通して、日中の女性の違いについても話題が尽きませんでした。

劉さんは明るくユーモアあふれ、これからの中国を必ずや背負っていかれる方だと信じています。劉さんをはじめ、多くの中国青年と巡り会える機会を与えて下さった方々に心より感謝いたします。



実績資料

# 1. 実施日程

## 公務員グループ

月日	曜日	プログラム内容	実施場所
11/5	火	来日 生活ガイド	東京
6	水	本計画のフリーフィンク 開講式 昼食懇談会 団体プログラム紹介 日本語学習	"
7	木	講義「日本の産業と経済」	"
8	金	日本語学習 講義「日本の近・現代史」 武道鑑賞および交歓会	"
9	土	体験的日本語学習打ち合わせ 体験的日本語学習	"
10	日	<自主研修>	"
11	月	日産自動車見学	"
12	火	講義「日本と中国」 講義「日本の社会と文化」	"
13	水	上野公園・東京国立博物館見学 国会議事堂見学 東京タワー見学	"
14	木	人事院講義「日本の公務員制度」 「日本の行政」	"
15	金	NTTコミュニケーションセンター見学 最高裁判所見学 相模湖へ移動 合宿セミナー開講式 交歓会	神奈川
16	土	基調講演 グループ討論 全体発表会 交流の夕べ	"
17	日	富士山見学 東京へ移動	"
18	月	東京証券取引所見学 NHK放送センター見学	東京
19	火	沖縄へ移動 歓迎式 沖縄県庁表敬訪問 オリエンテーション	沖縄
20	水	浦添市役所表敬訪問 美術館見学 沖縄電力・中央公民館・てだこ大学院見学 歓迎レセプション	"
21	木	那覇中学校訪問 沖縄整肢療護園見学 地元青年との交流会	"
22	金	沖縄国際センター見学 ホームステイ引き渡し	"
23	土	<ホームステイ>	"
24	日	ホームステイ スポーツ交流	"
25	月	中央卸売市場・琉染・壺屋陶器窯元・牧志公設市場・沖縄銀行見学 バーベキューパーティー	"
26	火	NHK放送局見学 豊見城村役場表敬訪問 村内見学 地元青年との交流会	"
27	水	オリオンビール工場見学 沖縄海洋博記念公園見学 さよならパーティー	"
28	木	広島へ移動	広島
29	金	宮島・厳島神社見学	"
30	土	縮景園・比治山公園見学 平和記念公園・原爆資料館見学 京都へ移動	"
12/1	日	嵐山・金閣寺・西陣きものショー・平安神宮・古代友禅苑見学	京都
2	月	東寺見学 東京へ移動	東京
3	火	<帰国準備>	"
4	水	帰国についての説明・諸手続き 評価会 歓送会	"
5	木	帰国	"

## 青年指導者グループ

月日	曜日	プログラム内容	実施場所
11/5	火	来日 生活ガイダンス	東京
6	水	本計画のフリーフィンギング 開講式 昼食懇談会 団体プログラム紹介 日本語学習	"
7	木	講義「日本の産業と経済」	"
8	金	日本語学習 講義「日本の近・現代史」 武道鑑賞および交歓会	"
9	土	体験的日本語学習打ち合わせ 体験的日本語学習	"
10	日	<自主研修>	"
11	月	日産自動車見学	"
12	火	講義「日本と中国」 講義「日本の社会と文化」	"
13	水	日本ユネスコ協会連盟訪問 歓迎昼食会 文部省訪問	"
14	木	国会議事堂見学 東京タワー見学 NHK放送センター見学	"
15	金	丸亀へ移動 合宿セミナー開講式 交流の夕べ	香川
16	土	グループ討論Ⅰ 料理交流 スポーツ交流 グループ討論Ⅱ	"
17	日	全体発表会 閉講式 岡山へ移動 岡山後楽園見学	"
18	月	倉敷市内見学	岡山
19	火	鳥取へ移動 オリエンテーション 歓迎夕食会	鳥取
20	水	鳥取市老人福祉施設見学 鳥取県庁表敬訪問 鳥取市役所表敬訪問 地元青年との交歓会	"
21	木	三洋電機工場見学 鳥取大学付属小・中学校見学 鳥取大学中国人留学生との交流会	"
22	金	県立博物館・仁風閣見学 渡辺美術館見学 鳥取砂丘見学 ホームステイ引き渡し	"
23	土	<ホームステイ>	"
24	日	ホームステイ さよならパーティー	"
25	月	米子へ移動 オリエンテーション 華道・茶道体験 地元青年との合宿・交歓会	"
26	火	米子市役所表敬訪問 ナショナルマイクロモーター工場見学 王子製紙工場見学	"
27	水	県水産試験場見学 松江城見学 足立美術館見学 さよならパーティー	"
28	木	広島へ移動 平和記念公園・原爆資料館見学	広島
29	金	宮島・厳島神社見学	"
30	土	京都へ移動 嵐山・金閣寺・古代友禪苑見学	京都
12/1	日	奈良東大寺・春日大社・薬師寺・唐招提寺見学 大阪ビジネスパーク見学	奈良
2	月	東京へ移動	東京
3	火	<帰国準備>	"
4	水	帰国についての説明・諸手続き 評価会 歓送会	"
5	木	帰国	"

経済青年グループ

月日	曜日	プログラム内容	実施場所
11/5	火	来日 生活ガイダンス	東京
6	水	本計画のブリーフィング 開講式 昼食懇談会 団体プログラム紹介 日本語学習	"
7	木	講義「日本の産業と経済」	"
8	金	日本語学習 講義「日本の近・現代史」 武道鑑賞および交歓会	"
9	土	体験的日本語学習打ち合わせ 体験的日本語学習	"
10	日	<自主研修>	"
11	月	日産自動車見学	"
12	火	講義「日本と中国」 講義「日本の社会と文化」	"
13	水	東京タワー見学 日本経済青年協議会オリエンテーション 歓迎昼食会 東京証券取引所見学 浅草見学・墨田川下り	"
14	木	大蔵省印刷局滝野川工場見学 大東京信用組合訪問	"
15	金	箱根へ移動 芦ノ湖遊覧 合宿セミナー開講式 スポーツ交流 交流の夕べ	神奈川
16	土	グループ討論Ⅰ グループ討論Ⅱ キャンプファイヤー	"
17	日	全体発表会 閉講式 東京へ移動	"
18	月	福岡へ移動 オリエンテーション	福岡
19	火	福岡県庁表敬訪問・県勢概要説明 北九州安川電機工場見学	"
20	水	東陶機器小倉第一工場見学 新日鉄八幡製鉄所見学	"
21	木	中国総領事館表敬訪問 福岡高等技術専門学校見学 福岡マリワールド見学	"
22	金	福岡市博物館、福岡タワー見学 ホームステイ引き渡し	"
23	土	<ホームステイ>	"
24	日	<ホームステイ>	"
25	月	太宰府天満宮見学 朝日新聞社見学 福岡県青年会議所青年との意見交換会 交歓会	"
26	火	九州電力玄海原子力発電所見学	"
27	水	福岡県青少年科学館見学 さよならパーティー	"
28	木	広島へ移動 岩国錦帯橋見学 平和記念公園・原爆資料館見学	広島
29	金	岡山へ移動 瀬戸大橋見学・遊覧 倉敷市内見学	岡山
30	土	京都へ移動 嵐山・金閣寺・清水寺見学	京都
12/1	日	<自主研修>	"
2	月	古代友禊苑見学 東京へ移動	東京
3	火	<帰国準備>	"
4	水	帰国についての説明・諸手続き 評価会 歓送会	"
5	木	帰国	"



## 教員グループ

月日	曜日	プログラム内容	実施場所
11/5	火	米日 生活ガイダンス	東京
6	水	本計画のブリーフィング 開講式 昼食懇談会 団体プログラム紹介 日本語学習	"
7	木	講義「日本の産業と経済」	"
8	金	日本語学習 講義「日本の近・現代史」 武道鑑賞および交歓会	"
9	土	体験的日本語学習打ち合わせ 体験的日本語学習	"
10	日	<自主研修>	"
11	月	日産自動車見学	"
12	火	講義「日本と中国」 講義「日本の社会と文化」	"
13	水	横浜へ移動 稲城市立第5中学校見学	神奈川
14	木	神奈川県庁表敬訪問(講義「神奈川県の教育概要」) 三溪園見学(茶道体験) ベイブリッジ見学	"
15	金	東芝科学館見学 合宿セミナー開講式	"
16	土	基調講演 グループ討論I レクリエーション 交流の夕べ	"
17	日	グループ討論II 全体発表会 閉講式	"
18	月	東京証券取引所見学	東京
19	火	青森へ移動 オリエンテーション	青森
20	水	青森県教育長表敬訪問 青森市役所表敬訪問 郷土資料館見学 青森県知事表敬訪問 歓迎レセプション	"
21	木	常盤小学校訪問 弘前大学教育学部訪問 地元青年との合宿懇談会	"
22	金	津軽こけし館訪問(絵付け体験) 県情報処理教育センター見学 ホームステイ引き渡し	"
23	土	<ホームステイ>	"
24	日	<ホームステイ>	"
25	月	八戸工業高校、小中野小学校、八戸第一養護学校、はまなす学園、種差少年自然の家見学 地元教員との合宿懇談会	"
26	火	浅虫水族館見学 クラフト教室見学	"
27	水	青函トンネル記念館・体験坑道見学 さよならパーティー	"
28	木	大阪へ移動 大阪城見学	大阪
29	金	京都嵐山、金閣寺、清水寺見学	京都
30	土	広島へ移動 平和記念公園・原爆資料館見学	広島
12/1	日	岩国錦帯橋見学	"
2	月	東京へ移動	東京
3	火	<帰国準備>	"
4	水	帰国についての説明・諸手続き 評価会 歓送会	"
5	木	帰国	"

## 2. 日中青年の友情計画実績一覧

### ●昭和62年度 (100名)

	人数	実施協力団体	実施府県	JICA 支部	地方協力団体	県等窓口機関	プログラム コーディネーター	JICA コーディネーター
総団	3	—	—	—	—	—	居崎 司	王 黎杰
勤労青年	25	世界青少年交流協会	大阪	関西	大阪世界青年友の会	大阪市教育委員会青少年教育課	牧尾 春奈	花蘭 通 茵 貴
教員	25	国際交流サービス協会	長崎	九州	長崎県海外協会	長崎県総務部総務学事課	鳥居 秋子	林 洋子 清田 明
農村青年	25	中央青少年団体連絡協議会	福井	中部	福井県青少年団体連絡協議会	福井県県民生活部青少年婦人課	清水 昇	品田 理恵 大塚 烈
青年指導者	22	日本経済青年協議会	滋賀	関西	日本青年国際交流機構	滋賀県労働部観光物産課	畔津雄一郎	馬場 箭子 寺沢 佳代

### ●昭和63年度 (100名)

	人数	実施協力団体	実施府県	JICA 支部	地方協力団体	県等窓口機関	プログラム コーディネーター	JICA コーディネーター
総団	4	国際協力サービス・センター	—	—	—	—	居崎 司	林 けいな
都市経済青年	24	世界青少年交流協会	香川	四国	香川県海外派遣友の会	香川県民生部青少年対策室	西 忠雄	山本 知里 王 黎杰
農村経済青年	24	中央青少年団体連絡協議会	徳島	四国	徳島県青年連合会	徳島県教育委員会社会教育課	山本 信也	菅柳 智子 曲 揚
教員	24	国際交流サービス協会	島根	中国	島根県国際交流青友会	島根県総務部総務課	陸 美容	鬼玉 啓子 村田 好子
青年指導者	24	ユースワーカー開発協会	福井	中部	福井県青少年団体連絡協議会	福井県県民生活部青少年婦人課	福山 敦夫	若林ひろみ 田中 久子

### ●平成元年度 (50名)

	人数	実施協力団体	実施府県	JICA 支部	地方協力団体	県等窓口機関	プログラム コーディネーター	JICA コーディネーター
青年指導者	25	ユースワーカー能力開発協会	宮崎	九州	ユースワーカー能力開発協会宮崎県支部	県総務部総務課	福山 敦夫	鬼玉 啓子 都 春彦
経済青年	25	青少年育成国民会議	静岡	関東	静岡県国際交流協会	県民生活局国際交流課	佐藤 英彦 淡 明弘	加藤 月子 曲 揚

### ●平成2年度 (100名)

	人数	実施協力団体	実施府県	JICA 支部	地方協力団体	県等窓口機関	プログラム コーディネーター	JICA コーディネーター
総団	* 4	国際協力サービス・センター	—	—	—	—	—	—
青年指導者	25	日本青年団協議会	三重	中部	三重県連合青年団	知事公室国際課	福田 淳	曲 揚 高木 品子
経済青年	25	日本経済青年協議会	兵庫	関西	兵庫県青少年本部	(兵庫県青少年本部)	斎藤 孝司	王 黎杰 岡田 美和
公務員	24	国際交流サービス協会	島根	中国	島根県国際交流青友会	総務部総務課文化国際室	吉田 照子	林 幸恵 劉 王蘭
教員	24	青年海外協力協会	岡山	中国	津山とアジアを結ぶ会	津山市企画調整部企画広報課	出沢 尚子	甲 千恵 郭 紅紅

### ●平成3年度 (100名)

	人数	実施協力団体	実施府県	JICA 支部	地方協力団体	県等窓口機関	プログラム コーディネーター	JICA コーディネーター
総団	* 4	国際協力サービス・センター	—	—	—	—	—	—
公務員	23	国際交流サービス協会	沖縄	沖縄	沖縄県青少年県民育成会議	総務部知事公室国際交流課	吉田 照子	橋本 和子 許 艶
青年指導者	25	日本ユネスコ協会連盟	鳥取	中国	鳥取県ユネスコ連絡協議会	企画部青少年婦人課	仲重 恵理	西村 直美 郭 紅紅
経済青年	25	日本経済青年協議会	福岡	九州	福岡県海外青年招聘事業実行委員会	企画振興部国際交流課	斎藤 孝司	大石英津子 張 愛平
教員	25	青年海外協力協会	青森	東北	青森県国際交流協会	総務部国際交流課	佐々木忠弘	甲 千恵 山本 雄子

\*うち2名団員兼任

### 3. 平成3年度青年招へい事業受け入れ実績一覧

受入時期	国名	分野名	人数	実施協力団体	実施県
5月14日～6月13日 1陣 120名	マレーシア // フィリピン // タイ	勤労青年 学生 学生(農業系) 教員 勤労青年 学生(マスコミ関係)	20 20 20 20 20 20	ユースワーカー能力開発協会 日本国際生活体験協会 全国農村青少年教育振興会 国際交流サービス協会 勤労厚生協会 世界青少年交流協会	高知 福岡 宮崎 茨城 大分 大分
5月28日～6月27日 2陣 160名	ASEAN 混成 ASEAN 混成 ブルネイ インドネシア // シンガポール //	学生 教員 教員・学生 教員 テーマA 学生 教員	30 25 20 25 20 20 20	日本ユースホステル協会 日本ユネスコ協会連盟 世界青少年交流協会 青年海外協力協会 ユースワーカー能力開発協会 国際交流サービス協会 青少年育成国民会議	長野 和歌山 岐阜 岐阜 山形 福島 鹿児島 北海道
7月2日～8月1日 3陣 134名	フィリピン // シンガポール // タイ	勤労青年I(産業系) テーマB 青年指導者 公務員I 青年指導者 テーマA	25 20 22 22 25 20	日本経済青年協議会 青少年育成国民会議 日本国際生活体験協会 国際交流サービス協会 日本青年団協議会 勤労厚生協会	長崎 佐賀 富山 宮城 愛媛 愛媛
7月9日～8月8日 4陣 96名	韓国 // // //	青年指導者 教員 勤労青年 学生	19 20 28 31	青少年育成国民会議 日本ユネスコ協会連盟 勤労厚生協会 世界青少年交流協会	三重 山口 沖縄 沖縄
8月20日～9月19日 5陣 161名	ASEAN 混成 インドネシア // マレーシア // シンガポール //	公務員I 勤労青年 テーマB 農村青年(公務員) テーマB(青年指導者) 勤労青年 公務員II	27 25 20 20 25 21 23	国際交流サービス協会 勤労厚生協会 日本ユースホステル協会 全国農村青少年教育振興会 青年海外協力協会 日本経済青年協議会 ユースワーカー能力開発協会	岩手 福島 東京 兵庫 群馬 奈良 奈良
8月27日～9月26日 6陣 117名	ASEAN 混成 フィリピン // タイ	公務員II 勤労青年II(農業系) テーマA 農村青年 テーマB	30 23 19 25 20	青少年育成国民会議 青年海外協力協会 日本国際生活体験協会 国際協力サービス・センター 日本青年団協議会	九州 秋田 山形 鳥取 富山
9月12日～10月8日 7陣 74名	P N G // フィジー 太平洋混成 //	教員 青年指導者 公務員 公務員 教員	20 10 12 22 10	日本国際生活体験協会 日本ユースホステル協会 世界青少年交流協会 国際交流サービス協会 日本ユネスコ協会連盟	大分 北海道 新潟 栃木 栃木
10月1日～10月31日 8陣 94名	ブルネイ インドネシア // マレーシア //	テーマA 農村青年 学生 教員 テーマA(公務員)	9 20 20 20 25	日本経済青年協議会 全国農村青少年教育振興会 日本友愛青年協会 日本ユースホステル協会 世界青少年交流協会	岡山 徳島 広島 新潟 長崎
10月17日～11月12日 9陣 100名	バングラデシュ ブータン・ネパール インド モルディブ・スリランカ パキスタン	教員 教員 教員 教員 教員	20 15 30 15 20	日本ユネスコ協会連盟 青年海外協力協会 世界青少年交流協会 ユースワーカー能力開発協会 国際交流サービス協会	青森 北海道 北海道 宮城 山形
11月5日～12月5日 10陣 100名	中国 // // // //	総団 公務員 青年指導者 経済青年 教員	4 22 25 25 24	国際交流サービス協会 日本ユネスコ協会連盟 日本経済青年協議会 青年海外協力協会	沖縄 徳島 福岡 青森
11月19日～12月19日 11陣 100名	中国 // // //	地域産業技術実務者 産業基盤整備実務者 経済・貿易実務者 文化・教育関係実務者	25 25 25 25	日本ユースホステル協会 青少年育成国民会議 ユースワーカー能力開発協会 世界青少年交流協会	岐阜 岐阜 大阪 香川
合計	ASEAN 5カ国(786) 中国(200) 韓国(98) 太平洋諸国(74) 南西アジア(100)			58グループ 1258名	

テーマA：環境問題 テーマB：社会福祉

## 4. 青年招へい事業実施協力団体等一覧

(社)青少年育成国民会議 (National Assembly for Youth Development-NAYD)

〒151 渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター

TEL3460-4151 FAX3460-1603

(財)世界青少年交流協会 (The World Youth Visit Exchange Association-WYVEA)

〒111 台東区浅草橋1-7-2 岩崎ビル

TEL5820-0791 FAX5820-0796

(財)日本国際生活体験協会 (Japanese Association of The Experiment in International Living-EIL)

〒102 千代田区麴町4-5 橋ビル6階

TEL3261-3451 FAX3261-9148

(財)全国農村青少年教育振興会 (The Rural Youth Education Development Association)

〒162 新宿区新小川町4-19 末ビル3階

TEL3235-7461 FAX3235-7462

(財)日本経済青年協議会 (Junior Executive Council of Japan-JEC)

〒151 渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター

TEL3469-2381 FAX3481-5726

(財)勤労厚生協会 (The Working Youth Welfare Association)

〒151 渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター

TEL3469-6421 FAX3469-6422

(財)ユースワーカー能力開発協会 (Development Association for Youth-DAY)

〒105 港区新橋1-1-1 日比谷ビル6階

TEL3508-2048 FAX3503-2535

(財)国際交流サービス協会 (International Hospitality and Conference Service Association-IHCSA)

〒100 千代田区霞ヶ関2-2-1 外務省第一別館

TEL3580-1621 FAX3580-1682

(財)青年海外協力協会 (Japan Overseas Cooperative Association-JOCA)

〒106 港区南麻布5-10-24 第2佐野ビル7階

TEL3446-3651 FAX3446-3652

日本青年団協議会 (Japan Seinendan Council)

〒160 新宿区霞ヶ丘町15 日本青年館2階

TEL3475-2491 FAX3475-0668

(財)日本ユネスコ協会連盟 (National Federation of UNESCO Associations in Japan)

〒163 新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル38階

TEL3340-3921 FAX3340-3928

㊤日本ユース・ホステル協会 (Japan Youth Hostels, Inc.)

〒162 新宿区市谷砂土原町1-2 保健会館

TEL3269-5831 FAX3235-0629

㊤日本友愛青年協会 (Yuai Youth Association)

〒112 文京区音羽1-7-1

TEL3941-2801,1888 FAX3944-2550

㊤国際協力サービス・センター (International Cooperation Service Center-ICSC-)

本 部

〒162 新宿区市谷本村町42 経済協力センタービル別館

TEL3355-6441 FAX3355-6448

国際交流部

〒160 新宿区片町6-8 ハッシービル3F

TEL3355-6491~2 FAX3355-2929

早稲田大学国際交流センター (Waseda University International Center)

〒169 新宿区西早稲田1-6-1

TEL3203-7747

日本武道館 (Nippon Budokan)

〒102 千代田区北の丸公園2-3

TEL3216-5137



# 日中青年友谊计划





# 序

“日中青年的友谊计划”是从1987年开始实行的五年计划。

今年迎来了有国家公务员、青年工作者、经济青年和教员等4个小组的100名青年，并顺利地结束了整个活动日程。这五年之间已经邀请了450名中国青年，他们每一个人与我国青年之间结成的友谊纽带，现在也通过通信等手段在日益牢固。同时我还听到有越来越多的日本青年到中国去访问的消息，这说明本计划能够担负起我国与中国友好亲善的重任，为此我感到无比高兴。

本报告书以中国青年代表、参加合宿研讨会的日本青年和提供家庭住宿条件的全国各地许多民宿主人寄来的感想文为中心，总结了中国青年一个月的来访情况。对此本计划实施过程中，得到了包括感想文作者在内的多方人士的大力支援和协助。我表示深切的谢意。希望本报告书不仅成为各位的美好回忆录，而且通过它，各位获得的宝贵经验能够成为更多人的共有财产。

最后，再次衷心感谢在本计划实施中给与热情关怀和协助的各位有关人士。同时，为了使我国与中国之间的友好纽带日益牢固，希望继续得到各位的大力协助。

国际协力事业团  
研修事业部  
部长 諏访 龙

1992年3月



# 目 录

## 序

### 一、日中青年友谊计划

1. 计划概要	49
2. 实施协助团体与实施县	51
二、招聘青年的感想	53
三、参加合宿研讨会的日本青年的感想	59
四、民宿主人的感想	66
〈实施情况等资料〉	
一、具体活动日程	70
二、日中青年友谊计划实施情况一览表	74
三、1991年度青年招聘事业实施情况一览表	75
四、青年招聘事业实施协助团体等团体等地址	76
〈招聘青年名单〉	79



# 一、日中青年友谊计划

## 1. 计划概要

### 1) 目的

“日中青年友谊计划”的目的是,通过邀请未来担任国家重任的中国青年访问日本,和日本同一代的青年人进行交流,以加深相互理解,培养真正的友谊与信赖,共同创造牢固而内容丰富的21世纪日中友好合作关系。

### 2) 实施方法

#### A 招聘人数

1991年度同时邀请100名青年

#### B 招聘对象

在以下各领域里从事领导工作的18~35岁的青年  
(不包括总团成员、各分团的团长和副团长)

##### (i) 总团

中华全国青年联合会干部

##### (ii) 青年工作者

中华全国青年联合会工作人员、各地从事青少年工作(防止青少年犯罪等)的青年干部

##### (iii) 公务员

中央政府各部门的工作人员

##### (iv) 经济青年

包括从事第三产业的人在内(流通、服务行业等)的企业管理人员或厂长等,国营企业、乡镇企业的管理部门的工作人员

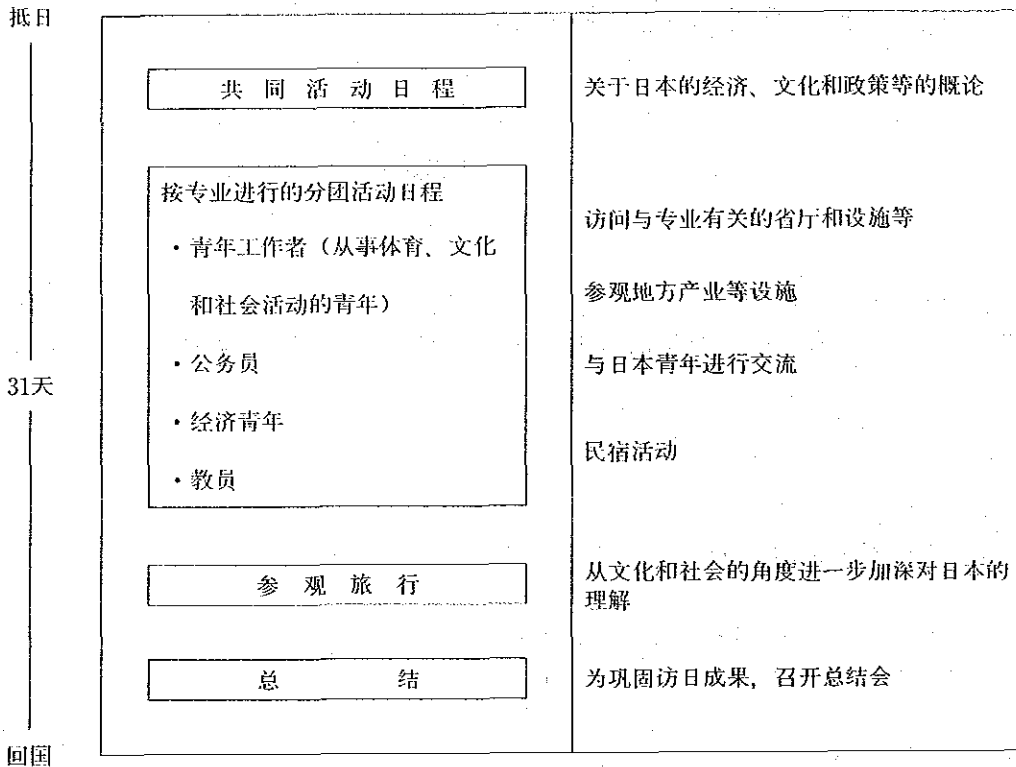
##### (v) 教员

中小学教员及学校领导等教育工作者

#### C 招聘日期

11月5日~12月5日 一个月

### 3) 日程概要



### 4) 接待体制

为了本计划能够顺利实施, 特设以下两个委员会。

#### A、有关省厅调整联络会议

(i) 任务: 就本计划的实施及运营方面的基本事项进行磋商。

(ii) 组成成员

外务省经济协力局技术协力科

农林水产省经济局国际部国际协力科

亚洲局地域政策科

劳动省大臣官房国际劳动科

大臣官房文化交流部文化第二科

自治省大臣官房企划室

总务厅青少年对策本部

国际协力事业团

文部省学术国际局国际企划科教育文化交流室

#### B、实行联络调整委员会

(i) 任务: 就计划的运营、分团活动日程的实施以及各活动日程之间的衔接等事项进行磋商, 同时就活动日程实施上的问题, 向国际协力事业团提出建议。

(ii) 组成成员: 由各省厅推荐的民间实施协助团体

(社) 青少年育成国民会议

(社) 国际交流服务协会

- |                  |               |
|------------------|---------------|
| (财) 世界青少年交流协会    | (社) 青年海外协力协会  |
| (社) 日本国际生活体验协会   | 日本青年团协议会      |
| (社) 全国农村青少年教育振兴会 | (社) 日本科教文协会联盟 |
| (社) 日本经济青年协议会    | (财) 日本青年旅馆协会  |
| (社) 勤劳厚生协会       | (财) 日本友爱青年协会  |
| (财) 青年工作能力开发协会   | (财) 国际协力服务中心  |

### 5) 计划实施与运营的分工

	日 程 监 督	日 程 实 施		食宿安排
		联络调整	实 施	
北京活动日程	国际协力事业团	国际协力事业团	各实施单位	各实施单位
共同活动日程 (东京都内)			国际协力服务中心	国际协力服务中心
东京都内 分团活动日程 (东京都内)		实施协助团体	实施协助团体	实施协助团体
合宿研讨会 (东京近郊)				
地方分团活动 日 程 (包括民宿)		实施协助团体 地方协助团体 (国际协力事业团 地方支部)	地方协助团体 (国际协力事业团 地方支部)	地方协助团体 (国际协力事业团 地方支部)
参 观 旅 行 (广岛、京都等)		实施协助团体	实施协助团体	实施协助团体
评 价、总 结 (东京都内)		国际协力事业团	国际协力服务中心	国际协力服务中心

(注) 地方分团活动日程是在地方公共团体的指导和协助下实施的。

## 2. 实施协助团体与实施县

分 团	人 数	实 施 协 助 团 体	实 施 县
总 团	4 (2名代表团员)	国际协力服务中心	—
青年工作者考察团	25	日本科教文协会联盟	鸟 取
经济青年考察团	25	日本经济青年协议会	福 冈
公务员考察团	22	国际交流服务协会	冲 绳
教 育 考 察 团	24	青年海外协力协会	青 森

日程实施县地图





## 二、招聘青年的感想

无题



张杰

公务员考察团

随中国青年代表团访日，受到日本人民、政府及各友好团体的热情接待。一个月的访问给我们留下了深刻印象。离别之际，书七绝二首以志并祝中日两国人民世代友好下去。

东风吹暖四时天  
遥望扶桑晓日妍  
只隔一条衣带水  
歌声好借海潮传

凭高放眼海如杯  
瀛岛遥看紫气来  
只隔一条衣带水  
邻邦两岸画图开

东风吹暖四时天  
遥望扶桑晓日妍  
只隔一条衣带水  
歌声好借海潮传  
凭高放眼海如杯  
瀛岛遥看紫气来  
只隔一条衣带水  
邻邦两岸画图开  
张杰书于东京

记终生难忘的冲绳民宿生活

张淦/艾尔肯

公务员考察团

初到日本，身处异国他乡。语言不通，风俗习惯不同，难免产生一种陌生感，但经过几天的民宿生活，使我们感到就象回到了自己的家乡一样，快乐而且富有意义的民宿生活使我们终生难忘。

我们民宿家的主人是岛袋正雄先生和他的妻子岛袋苗子女士。他们为迎接我们的到来，从几个月前就开始准备了。11月22日他们两人象家长认领自己的孩子一样，把我们请上了汽车。首先带我们参观了“和平祈念资料馆”，向我们进行热爱和平反对战争的教育，然后带我们去见他最喜欢的小孙子。小朋友那天真可爱的大眼睛，使我们看到了未来的希望。一到他家，他们两人立即就忙开了，又是做饭又是为我们准备洗澡热水，还特意请来了会中文的张先生一起进行交流。岛袋先生的兄弟和老岳母也特意过来欢迎我们，使我们感到真比回到自己家还温暖。

第二天，岛袋夫妇和他的兄弟以及70多岁高龄的老岳父岳母，陪我们到几十公里以外的海边上钓鱼，冲绳这一日本的夏威夷，秀丽的风光使我们深深地陶醉了。他们先是手把手地教我们怎样钓鱼。然后去准备丰盛的午餐。晚餐时我们亲口尝到了自己钓的鲜鱼，那兴奋的心情无法表述。傍晚，岛袋先生的亲属十几人不顾一天工作的疲劳，驱车几十公里赶到海滩，与大家一起开了篝火晚会，大家在一起又是唱又是跳，心情无比激动和兴奋，那熊熊燃烧的篝火照亮了每一个人的脸，也温暖了每一个人的心。

第三天，岛袋夫妇又带我们到琉球村参观，使我们看到了冲绳人民艰苦奋斗的历史、优良的传统和文化。之后，他们与许多亲朋好友又陪我们一起打保龄球，尽管我们两人是第一次打保龄球的生

手，但在他们的指教下，小组的成绩也是相当不错的。晚上大家就要分手了，他们特意把我们请到日本餐馆共享快乐的晚餐，我们尽情地喝酒、唱歌、交谈。不知时间为什么过得这么快，好象只一眨眼的功夫，就到了深夜，大家依依不舍地握手道别，岛袋先生的兄弟还与我们紧紧地拥抱着在一起，恨不得永远不分开。

三天的民宿给岛袋先生一家添了许多的麻烦，他们腾出最好的房间让我们居住。为我们做中国式的饭，为我们演奏钢琴，教我们唱歌，购买了大量的食品和生活用品让我们用，为了让我们的民宿生活过得愉快，他们真是绞尽脑汁，费尽心血，我们真不知如何感谢他们才好，只能用一首诗来表达心情。

三天快如三秒钟  
友谊永远记心中  
一衣带水好邻邦  
世代友好保和平

没有人情哪有和平



董英

青年工作者考察团

我很荣幸地参与了21世纪中日青年友情计划活动。我所在的中国青年指导者考察团从东京到香川又，从香川又到岡山，鸟取，然后又兴致勃勃到广岛，京都，奈良，大阪等各具特色的地方旅游观光，渡过了一段很愉快的时光。尤其是在手岛的合宿活动，鸟取的民宿以及交流、讨论活动。留下了深刻印象，撒下了许多友谊的种子。

应该说，我们所到之处，所参与的每一项活动，无不充满着友好，和平的气氛。在这难忘的日子里，我看到的每一个微笑，接受的每一声问候，聆听的每一首歌曲，无不我的心划上划过深沉的情感轨迹。当我沉浸在这平和、友善的环境中时，我深深地感到，语言障碍显得那么微不足道。我由此而联想到，中日的友好，世界的和平，如果缺乏民间的交流，如果缺乏感情的默契，一定会显得苍白

无力。

当我即将要离开这个温馨绿色岛国之时，我感到我已经不知什么时候很潇洒地接受了她的友好拥抱。和香川青年合宿时那些侃侃的交流，体现各自民族风味的野炊，具有竞争力的体育比赛，还有那深具历史意味的神面太鼓等，仍然一幕幕在脑海里闪过。最富有人情味的民宿体验，则象一股清冽的甘泉，一次次激起我的怀恋。我发现许多日本朋友都已经成为我的诚挚的亲友。还有一个接一个富有诱惑力的观光旅游，那么愉快、那么惬意。日本——这个富有时代感和历史感的民族，在我们的心中已经不是那么抽象了。

这一个月里，激动人心的场面很多，我只恨我的拙笔不能淋漓尽致地把这些所感所想跃然纸上。我感到，我们这次活动已经成为中日友好的历史长河中富有生气的一股激流。我也自信地看到，这一系列的深层次交流，已经在两国人民，尤其是青年人心中留下了难以磨灭的印迹。中日两国青年一定会在这友好的旋律中不断填写精彩的音符，并将这和平的歌声传遍全世界！

我相信，这是我们中日两国青年共同的心声。

## 难忘的民宿



刘利民

青年工作者考察团

来日学习考察一个月，开了眼界，感触颇多，一言难尽。特别令我难以忘怀的是在鸟取县的民宿活动。

参加访日团听说有民宿活动的安排，我曾一度顾虑重重，总担心由于中日两国语言、生活习惯等方面的不同，双方难以交流，因此对民宿能否取得好的效果持怀疑态度。然而，民宿的实践使我修正了自己的看法。

我民宿的主人是位小学教师，年方32岁，英俊潇洒。初次见面的那天下午，尽管我们素不相识，但他的一声中国语“你好”，我的一声日语“こんにちは”一下子就把我们的感情拉近了许多。也可能是由于年龄相差无几，也可能是由于同文同种的

原故，虽是初次见面，但都有似曾相识之感。

来到主人家中，他年近70岁的父母和年轻漂亮的妻子都迎候在门口。看着他们和蔼可亲的笑容，使我好象见到了久别的亲人。他们把我引到专为我准备的房间里，窗明几净，暂新的被褥，甚至连睡衣、洗漱用具都应有尽有。可以看得出，主人一家为迎接我的到来是经过一番精心准备的。目睹这一切，心中的感激之情油然而生。

接风的晚宴十分丰盛，主人一家老少三代与我同桌而食。虽然语言不通，但通过文字，眼神和手势的交流，我们之间的感情更加亲近了，我因到异国他乡而产生的陌生感和拘谨一扫而光。我们为相逢，为自己的国家和双方的亲人频频干杯。真是“酒逢知己千杯少”。主人68岁的老父亲兴奋的忘记了的酒量，喝得有些醉了，被搀回了房间。

餐桌上话犹未尽，晚上在我的居室里，男主人又与我边饮边谈。我们用笔谈工作，谈生活，谈志向……。此时我们已跃过了语言不通的障碍，谈得十分投机，默契。我年长他几岁，我们以兄弟相称，真是相见很晚，直谈到深夜。

第二天，主人又陪同我参观了养牛场、农场、鸟取市容和日本海岸，观看了日本电影，使我从多个侧面对日本又有了进一步了解。

短短两天多的相处，我和民宿主人已成为“铁哥们”（北京语好朋友的意思）。分手之际，我们依依不舍，难分难离。我们已约好，来年夏季主人夫妇到中国旅游之时，我们将在北京重聚。

民宿活动结束了，但给我留下的印象将终生难忘。我从民宿主人一家对中国人的盛情，感受到了日本人民对中国人民的友好之情。我真诚地祝愿中日友谊地久天长，我也将为此作出积极的贡献。

衷心地感谢日本国际协力事业团和科教文组织为我们访日考察所作出的周密安排。

## 访日小结



许俊

经济青年考察团

我第一次参加出国考察活动。一个月来，经过各种讲座研修、座谈交流、参观见习，

合宿、民宿等活动，对日本的经济、文化、民风民俗以及青年的一些心态现状，都有了一些具体的了解。特别是对日本生产力、科学技术以及管理的水平有了更直接的认识。这一切都使我感触颇深。但是，最引起我深思的还不仅是这些，而是促使日本经济发达的那种近乎全民的工作责任心确立。

一个月中，不论走到什么地方，不管是接待组织安排的活动，还是私下进行的观察，发现日本人不论干什么行业，只要是在工作岗位上，就全是那么认真、一丝不苟。有一次我从池袋乘电车到新宿，正好有意一位残疾人摇着轮椅车也进了站，马上就有几位站台工作人员把他抬上阶梯送进车厢，然后给抵达站台通了电话。车一到站，便马上有几位工作人员到车箱里把他抬着送出了站台，这件事给我留下了很深的印象。我想，这种自觉的工作行为，不是仅仅用工作积极性或是觉悟所能解释的，它完全是一种在工作责任驱使下的自觉行动。那么，日本人这种工作责任心是如何形成的呢？也许有人会说，是金钱在起作用。但是，仅这么解释是否过于简单了，尽管资本主义社会一切都离不开金钱。我认为，这还应在日本战后成功地把国家、民族和个人生存的危机感教育溶于一体，使“努力干”变成了人们工作的自觉的、共同的准则，变成了人们普遍的观念性的东西。从这个意义上说，发展经济与发展教育有着密切的关系，就在于教育不仅是知识的传授，而是人的综合素质的培养、尤其是人的工作精神的培养。

这是我出访体会中最深的一点。

## 关于日本的见闻与遐思



杨 筱怀  
经济青年考察团

“日本”这个词，在我幼年时代就已深深镌入脑海了。因为我的祖父、父亲都曾是中国

北方当年的抗日积极分子。随着岁月的流逝，我对日本这个词的理解也在发生变化。终于在我35岁的时候，有机会亲身来到了日本这个国家，并且结识了许多日本人。他们当中给我印象最深的要数松尾康夫和今井清二两位先生了。

松尾康夫是我在福冈民宿时的男主人。今年五十岁。从中学时代起，他就醉心于中国的历史和文化。他和他的部下井上和美，因为对中国文化的共同兴趣而结为忘年之友。我到他家之前，他们就准备了许许多多问题要我解答。入宿松尾家的第二天，在翻译朴丽花的帮助下，我和松尾康夫、他的夫人加代子及井上和美整整谈了一天。上至春秋战国，下到清末，民国、孔子孟子、佛教儒学、孙中山、蒋介石、毛泽东、周恩来，凡他们关心的中国历史与文化问题，无所不谈。他们那种对中国历史文化知识的认真探求精神实际水平，在非专业的普通中国人中也不多见。他们甚至知道“忘八——”王八“（中国古代文化人称不遵守“仁义礼智信忠孝悌”八个字的人为“忘八”）含义的演变。

离开福冈那个夜晚，松尾夫妇，井上和美与朴丽花一行又专门来送行。分别时我们的手叠握在一起，久久未松开。松尾康夫和井上和美真诚地说，“因为中国现在比较穷，有一些日本人看不起中国人。但是正直的日本人都希望自己的老师中国强大。以前的近百年间，日本做出了学生打老师的事，日本人民永远不会忘记中国文化给日本文明带来的无与伦比的恩惠，日中两国人民应该永远是好朋友。”闻听此言，我流出了热泪，松尾与井上也很激动。我们重叠交握的手摇了又摇，晃了又晃。

今井清二是广岛大崎町石油店的老板，近六十岁的人了。仍十分喜欢开玩笑。在日本酒馆喝了几口酒，他就用汉语说：“我是地地道道的中国人，不会说日本话。小姐，再来两瓶。”

与今井先生相识是在5年前，那是他第一次到北京，只会说“谢谢”“你好”4个中国字。以后，他每次到中国，我都觉得他的中国话有不少长进。1989年后，今井先生再未去过中国，我们之间只是通信。他曾经是个农民，没有上过大学，更没在专门学校进修过外语，但他用中文写的信，让你挑不出语法和语气上的毛病。

分别后三年在广岛重逢，今井已经能够较自由地用中国语表达自己的思想了。一见面，他就告诉我：“你们在广岛只一个晚上，时间太短。我想请你们吃日本饭，去的人越多越好。”那天，在四个多小时，他请我们在几个不同档次的饭馆吃了几次不同风味的饭，去了两个风格迥异的卡拉OK，甚至玩了一次弹子游戏机花了不少的钱。为此，我很过意不去，劝他不要如此破费。他听后摆摆手：

“没关系。花这钱，不是要你们享受什么，而是了解日本社会，了解日本普通人民的实际生活。”

随行的一位在广岛留学的中国留学生陈曙铭告诉我们：“今井先生对中国留学生非常热情，经常请一些中国朋友到岛上去游玩，吃饭，有的留学生开车去，他每每都要把人家的油箱灌满，一分钱不收。这在日本几乎是闻所未闻的怪事，中国留学生说今井不象日本人。”

其实，今井先生是地地道道的日本人，一个受了中国传统文化熏陶的日本人，一个对中国人民友好的日本人。据我所知，他已热情地帮助了在广岛留学的几茬中国留学生，从早先的台湾青年，到近些年的北京、上海、浙江青年。许多回国的博士、硕士们至今仍和他保持着书信往来。今井先生的心已很大程度地和中国人融在了一起，为中国发生的一切灾难而忧，为中国取得的一切进步而乐。

这次分手时，今井先生一反往常那种“老不正经”般的嘻闹与玩笑，十分庄重地对我说，“中日友好是中日两国人民的历史责任，中日友好不仅对日本，对中国至关重要，对东方世界、对全球是不可缺少的。我爱日本，也爱中国。”

也许，今井先生的话真能代表那些热心的日中友好、热心中国文化的日本人。世界在发展，日本和中国也在发展，这种发展，需要各国人民自己的艰苦奋斗，同时，也需要国与国、人民与人民之间



而广泛的信息与广告，占据了电视台的大量画面，这是一个例证。这种兼收并蓄、继承与发展为一体的观念值得借鉴。

其三，国民教育与社会发展紧密结合。日本的崛起与重视基础教育是绝对分不开的，从明治维新以后，日本普及义务教育，有完整的教育法规，有经费管理体制、学制上的保证。参观了日本的学校，了解到日本的教育方法是注重学生的能力、素质与个性的培养，注重教育与经济建设相结合。并有一套完整的教师考核、雇用制度，这一切为日本

的教育发展打下了坚实的基础。

当然，日本的人口减少、老龄化、地价昂贵、自然资源较少也是等待解决的问题。总之，东京、大阪的繁华，广岛的清新、秀美，青森的苹果和当地人的热情，京都景色那传统古朴的风格已印在我的脑际深处。

中国和日本是近邻，上海是连接日本的一个窗口。作为一个上海的青年，理应为中日友好事业多做实事。为了21世纪亚洲的繁荣，中日两国青年，让我们把手挽得更紧！更紧！















动，从对能加深理解外国和促进国际交流这观点来看是很有意义的，因而对此应当给予适当的评价。

按青森县的现状来说，这种活动暂时需要以象我们这样曾当过青年海外协力队员的人们为中心来

促进它，这是很有意义的。

通过参加这次活动，使我能够确认到了这一点。

## 四、民宿主人的感想

### 接收民宿客人

片山 优子  
青森县

起初谈起让我接待家庭访问者之事时，我认为他们不会到这偏僻的乡村来，又因我祖母住院，妈妈陪床，家里只有我一个人，我担心接待时没有家庭气氛，会有失礼节。

但，随着事情的发展，十一月二十二日，去迎接家庭访问者的日子到来了。对我来说，这是第一次接待家庭的访问者。又打扫房间，也整理寝室，但遗憾的是没有时间清洗汽车。午前我就结束了工作，以一种期待和不安掺杂在一起的心情来到了会场。

我所接待的隔女士很理解我的担心，她说比起城市来，更喜欢充满大自然的地方，我心里也松了一口气。

隔女士是日语翻译，语言通，相处起来就像是好朋友来玩一样。三天转眼间便愉快地过去了，等送她走时，我们已成了老朋友。

那天从下午开始下起雪来，回家的路一般只花1个半小时，那天竟花了四个多小时。回到家后，发现了隔女士忘了带走的东西时，心中不禁涌上来一股寂寞之情。

妈妈后来说她担心在接待家庭访问者期间，病情严重的祖母会去逝，夜里睡不好。

但是，对由于祖母住院，心情不太好的我们一家来说，和隔女士的相见给我们带来了快乐的话题。

对于生在、长在小城镇的我来说相逢的场所、相逢的人有限。我想珍惜这次家庭访问中的相逢。

### 为合宿所作的诗

田村 佳子  
鸟取县

大意：

带着笑脸互问“你好！”，从此开始的二夜三天的家庭访问。

通过握手，紧张感消失了，看着刘先生的侧脸，亲近之感涌上心头。

反复来记刘耀辉的中文名

在中国的刺绣、酒等礼品的小山面前，不知说什么好。

和刘先生一起围着冒热气的火锅，代替语言的是笑脸和手势。

同吃一个火锅里的菜，对刘先生感到了预想不到的亲近。

谈着中国、日本，喝着美酒，秋夜已深。

不懂笔谈中写的中国汉字，用眼睛和眼睛的交流。

和儿子、儿媳围着刘先生、用纸、笔交谈。

过去的事埋在心中，倾听刘先生谈着中国文化。

微醉的刘先生伴着手打的拍子唱起中国歌。我们肩靠着肩。

听说中国的主食是粥，我们共喝冒着热气的粥。

与刘先生一起去游“牛之户”、“用濑”，“水源地”等六处，回家时夜幕已降临。

与刘先生去佐治，路旁出现了山猴子，它发出了欢声。

对在笔谈中，刘先生多次写的“欢迎来中国”，十分感动。

留下了笔谈用的30多张纸这一美好的回忆。送走了刘先生。

对刘先生的有形无形的回忆成了我家的话题。